京城日報

…千八十三萬六千圓、輸入額十六億二…千七百七十七萬三千圓にして結局二億五千三百十二萬三千圓の[illegible]…

…入額に於て六億二千七百十八萬二千圓(六割三分三厘)を孰れも増加し出超額に於ては二億九千六百卅[illegible]…

備考　本表には帝國對朝鮮の外[illegible]貿易額を含まず又本表の數字は横濱以下十九港の分なり但し十一月迄は全國の分なりとす

▲大戰以降

…當日間に於ける我對外貿易の…所謂戰時中に於ける我外國貿易の總額を大觀せんに輸出入總額は九十四億一千二百十二萬[illegible]…を示し大正五年より初めて之が輸出超過を示せるやうになりたり…右五十二箇月間に金[illegible]を輸出せられたるもの二億四千四百卅一萬九千零廿二圓同輸入せら[illegible]…臺灣に對する金銀移出入額は二十八日の如きは一日一萬四千圓…

…月迄五十七萬圓なるに今十二月は二十九日迄に二十四萬圓餘に達し…

…十五萬圓…の如く盛況を極めしは魚價は昨年に比し四五割高なるも鯛盛漁期に氷を控へせる爲め釜山へ水揚…の排底せる爲め…に石油…使用の內地移出の運[illegible]…係上自然釜山への水揚量増加を來し約百五十萬圓に…

本紙定價 [illegible]
發行兼編輯人　奧田[illegible]
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社
電話番號 [illegible]

大戰五年の回顧(二)

東部戰線

千九百十四年七月卅一日、露國は總動員の風雲急なるを見て、直ちに動員を行ひ、八月一日獨國の宣戰するや、急遽東普魯西に侵入を敢行し、見事に其成功を奏して八月十七日には早くも獨軍をしてケーニヒスベルグより退却の止むなきに至らしめ、八月二十三日にはインステルベルグを占領し、約一週間に亘りて、宛然無人の境を行くが如き壯快なる進出を行ひたるより、東普魯西の住民は、蒼皇伯林に避難する者も踵を接し、若し夫此勢ひを以て進まば、伯林亦震駭すべきの觀ありて、世界の耳目は東部戰線に集中されたり

露軍の奮闘

斯くて東普魯西及びガリシヤに於ける露軍の戰線は、ヴイスチユラ河よりドニエステル河に至る迄延長し、ガリシヤの首府レンベルグに迫り、九月二日遂に同市を占領せり、之れより前數日東普魯西亞に於てはタンネンブルグの戰鬪ありたるが、レンベルグ占領と同日ヒンデンブルグ軍の爲に露軍はマスリアン河に於て大敗を喫し捕虜六萬を出だせり、之れローリングホーフエンの所謂タンネンブルグの全滅戰なり茲に於て露軍の東普魯西亞侵入は一大打擊を被りたるも、未だ全戰線に對して影響すべき程の致命傷には非ざりし也、波蘭方面より進出する露軍はシレシヤのブレスラウに向つて進み九月二十日を以てヤロスラウを占領し續いてプレゼミスルを占領せり、獨軍はアウグストマの戰ひに敗れ、次で十月十八日のヴイスチユラ河畔の戰鬪にも利あらずヒンデンブルグも遂に北部波蘭より退却するの餘儀なきに至れり即ちヒンデンブルグはヴイスチユラ河畔の戰鬪には多大の望みを囑し、其の結果によりてはワルソーを一蹴し去らんとせしも、三方面よりする露軍の爲に、其左翼を脅かされコゼネツツに於て、ヴイスチユラ河を渡りたる露軍の爲に、其右翼を攻擊せられたるが故に、見る〳〵形勢忽ち不利に陷れり、此時南方戰線に於てはクラカウ、ツエンストコウを中心として激戰進行し、カルパシヤンの露軍は墺軍に破られしも北方獨軍再度の波蘭侵入は沮止さるゝを得たり開戰第一年は斯る戰鬪情況を以て暮れ、露軍は依然優勢の位置に立てり。

開戰第二年

開戰二年目即ち千九百十五年、露軍は有利なる形勢に乘じて、三月十七日一擧にプシエミスルを占領し、ガリシヤの大勢を確立せり、此の戰ひに於て獨逸將校九十三、將校二千五百名、兵卒十一萬七千人を捕虜とし、同月廿一日には匈牙利の入口なるベスキット山脈の最高處を占領せり、今次大戰中に於て、露軍勇名の最高點に達せしは、實に此時なりしなるべし、然るに五月二日に至りて獨墺聯合軍の大攻擊を開始するや、何事ぞ忽ち勝敗の位置を轉倒し、折角占領したるプレゼミスルは六月三日を以て、獨墺軍に奪回せられしを手始めに、露軍容振はざる事夥しく連戰連敗同月十五日迄に捕虜十二萬二千四百、砲四十三、機關銃二百を空しく敵手に委ねたり、此敗因は全く武器の缺乏に依れるもの、如し。

露軍の連敗

獨墺軍は連戰破竹の勢ひを以てレンベルグに迫り、露軍戰線の一部は既に波蘭國境より北方に轉入しマッケンゼン軍の一部は、ブグ、ヴイスチユラ河の間を北に向つて進出せり、此攻擊に用ひられたる獨軍は、實に二百萬と註せらる、獨墺軍の戰鬪目標はブレスト、リトウスク及びイヴアンゴロットに在りしもの如く、ダアネフ河を渡りたる露軍は最早敵の壓迫に堪ゆるを得ず、七月十五日ヤストロレンカ、マドム、グロイエツ、プロニーを失ひ、ワルソー亦危險に瀕せしが、終に同市をも拋棄せり、斯て獨墺軍の最も左翼は、七月二十一日クールランドの全部を占領し、リガに近く數哩に迫り、ビユロー軍はシヤウリの東南三十五哩に達し、ワルソー、ペテログラード鐵道の重要地點たるコウノ、ウイルナ及びウイルナ、ドヴインスク兩線の接續點を脅かし、八月四日イワンゴロット遂に陷落し、翌五日レオポルド親王麾下の獨軍はワルソーを包擊して同日占領入城せり、茲に於て露軍は翌六日を以てノウオゲルキーウスクの要塞を除くの他、ヴイスチユラの全戰線を撤退し、同月八日レオポルト軍は、ブレストリトウスクの北方ナ五哩に於て、ブグ河を渡り、アイヒホルン軍は同日コウノを占領したるを以てグルドノ、ウイルナ、

露軍カルパシアン進出

ブレストリトウスク、ドウインスク、ペテログラードの諸市を聯絡する鐵道は、漸々危險となり、一方ガルウイツ軍はビーエロストツク附近に於て鐵道に達し、レオポルト軍及びマッケンゼンの獨墺聯軍と共に、大半圓を描きてブレストリトウスク包圍の形勢をなしたり、十九日ナレウ、ヴイスチユラ合流點の要塞、ノウオゲオリギーウスクも亦遂に陷落し、獨軍は捕虜八萬五千、砲七百門を得、ブレストリトウスク、オリヌ、グロドノ、ピンスク等も次で陷り、獨墺軍の進出は眞に疾風枯葉を捲くの概ありて、露都爲めに危く、ウイルナ、キエフに於ては既に市民の撤退を完了せり、九月八日露軍總司令官ニコラス大公は突如として、高加索總督兼南方司令官に任ぜられ、露帝自ら總指揮官を兼ねしが、マッケンゼン軍の塞爾經より攻擊開始と共に東部戰線は一段落を告げ開戰第二年目を送れり。

開戰第三年

開戰第三年目即ち千九百十六年は敗頽の露軍更に盛返さんとし、六月四日を以て逆攻勢に轉じ、戰鬪はウオルニヤよりベッザラビヤの沼地に至る迄、二百五十哩の戰線に於て開始され、墺軍大敗、露軍勝に乘ぜんとするや、獨逸は更に援軍として二個軍團を送り、墺軍を助けてコウエル正面に戰ひ、露軍をストコ河に擊退せり、此の戰ひに於て名譽を博したるは、露國のブルーシロフ軍にして、露國の戰史を飾る最後の好戰鬪なりし也、東部戰線は事實開戰第二年目に於て勝敗既に決し、第三年目の露國最後の奮鬪たるブルーシロフ將軍の健鬪も、亦能く大勢を挽回するに足らず、第四年目たる千九百十七年三月十二日の革命を以て、露國は遂に破滅の導火線を作り、戰鬪圏外に出たり。

前首相寺内伯爵試筆

忘年會(二)

上田良一

『謹聽して頂く程の値打のある話でも有りませんが……』

と、やはり目を前に落したまゝ暫く躊躇してゐたが、やがて一種の恥ぢた心の餘裕を作らうとする微笑の混じつた表情を浮かべて、靜に話し出した。

『御承知の通り、僕は一昨年の九月に此方へ參つて、御厄介になる僕になりましたのですが、それまでは東京にゐました。三日飯を食はなかつたのはその時のことです。

『一體僕は甚だ身の程を知らない人間で、不相應な大きな希望を抱いて仕方がありません。無論、自分ではその時に分不相應であるとは思ひはしませんが、その希望がまるで遂げられないものになつて來ますと、誰でもさう思はなくては成らないのです。實際僕はさうした希望、謂はゞ空想を、現實にしようと想ふばかりに此までの年を造り減らして來たやうなものです。若し僕に才能の鈍さに伴なつた野心の鈍さがあつたなら、恐らく今頃はもう少し安易な生活に根を下してゐることが出來たらうと思ひます。しかし僕は一つの職業に長く辛抱してゐる事が出來ませんでした。こんな事を何時までもして居ては可けない、いくらこれで成功したつて先が見え透いてゐる。止さう、止さう。さう思ひ始めると、僕は矢も楯も堪まらなくなります。そしてまた新に自分が空想によつてさも眞實らしく組立てた成功の途の方へ身を投じます。しかしやがて其もまた自分の豫期の通りに行かない事を發見します。さうすると其の仕事を唾棄して、更に新しいものを見付け始めます。

『こんなにして、僕は國の方で四五度は仕事をかへました。かへるだけ、餘計に自分の進み方は遲い。遲いだけまた餘計に焦り出す。さうしてとう〳〵殆ど手ぶらで東京へ飛出して行きました。それが一昨年の春です。

『僕は子供の時から繪が好きで、僕の才能の中ではまた繪を描くことが一ばん優れてゐると思ひますが、尤も可けない事は、それが僕の才能の中ばかりでなく、他人と較べても決して酷く劣りはしない、よし今は劣るとしても其は修練の不足が故で、性質としては劣らないものだといふ自惚のある事です。僕の野心の原動力、空想の中樞は、こゝに有りました。東京へ出て行つたのも、今までのやうな片手間の仕事をやつて、石に齧り附いても、本當に、眞劍に、自己の全生活を畫家としての生立に捧げようといふ決心をしたのでした。僕は泰西の偉大な畫家が、食ふや食はずの窮乏の中から、立派な藝術を製作することの出來たのを、崇高な不斷の刺戟として胸に刻み附けました。

『僕が東京へ行つて見ると、窮乏は豫期以上に強く、速かに迫つて來ました。そして希望し、空想した幸運は些とも開けかゝらない。東京に僕は知つてゐる人を二人持つてゐましたが一人は新聞店の二階から法律學校に通つてゐる友達で、僕の生活の頼みを求めることは出來ません。一人は國の方で繪の敎へを受けたことのある人で、僕に繪を描く力を與へてくれたもの、中で、人として一ばん御懇意を願つてゐる先輩で、繪を書くのを職業としてゐる方でした。僕は此の先輩を心頼みにして、パンの代を稼ぐ位の仕事は雜作もなく見附けて貰へることゝ安心して行きました。處が訪ねて見ますと、左樣ではありません。自分の筆一本に五人の家族を辛うじて支へて行つてゐる、人を世話する餘裕も、人に分與へる仕事も持つてゐない境遇にその先輩は居ましたのです。

『東京に行けば新聞、雜誌、圖書さう云ふ出版物が無數にあつて、それ〳〵繪畫を必要としないものは無い。その中の二つや三つは容易く自分にも引受けられるであらうと思つて行つた豫想は、この先輩の生活を見、その話をきくとガラリと外れてしまひました。なる程繪の需要は澤山あるが、またその需要の缺けつ端も洩らすまいと、無數の繪描きがギシと詰まつてゐる。餘程特別の好い手藝を持たないでは、田舍からアラリと出て來たやうな只の、素人器用に毛の生えた位の繪描きが割込む餘地はないのです。その先輩はその時團扇の版下繪を描いてゐました。そしてそれの報酬を話して聞かせましたが、それは殆ど屈辱的と云つて好い微廉いものでした。

『兎も角も僕は先生から紹介して貰つて、やはり團扇の繪を描くことになりましたが、最初に試驗的に五枚ばかり描いて行きますと、團扇屋の番頭がその中の二枚について、色々と批評しました。そしてその評言に從つて描き直して來いといふのです。批評しなかつた三枚は、繪柄が面白くないと云ふので全然卻ね退けられたのでした。かうした事は團扇屋相手の繪描きとしては、何でもない日常茶飯のことでせうが、腕は未熟でも、繪を藝術として眞面目に之に奉仕してゐる僕の心に取つては、かなり憤慨を感じさせました。が仕方がない、何も商賣だ、是方が弱いんだ、さう諦めて僕はおとなしく繪に描き直して持つて行きました。そしてその二枚に對する賃錢、全く繪の描き賃を受け取りました。

『しかし恐らくその描き直した繪も、餘り番頭の氣に入らなかつたか、それとももう必要がなくなつたか、團扇の繪はそれぎりで終れました。それからやはり先生の周旋で、草雙紙屋に出るやうな、子供相手の安本の繪を一二冊描きました。けれども如何も本屋の方で僕の繪を喜びません。從つて仕事を呉れません。今度はゴム鞠の模色をしたり、雜記帳の表紙のちよいとした裝飾を描いたりするやうに成りました。

『それらのもの、報酬は徐々少い。お負けに仕事そのものが途切れます。僕の生活は始めから決して餘裕のあるものでは有りませんでしたが、それがより甚だしい方へ窮迫して來ました。そして左樣なると、また例の癖が出て來ます。あゝ、こんな事をしてゐて如何するんだ、俺の藝術は何時育つんだ、何時まで俺はかうして俺の裡に隱れてゐる偉い才能の芽を屈げてゐるのだ、さう思つて、當もなく悶ね、焦れ、苦しみ始めます。そしてよしんば仕事があらうとも、それに心が向かないで、たゞ漠然とした憂鬱に閉されて、烟のやうに消えてしまふ日を送ります。

『この、周圍が自分に背いて行くのを見て、益々頑なに憂鬱の殼の中に自分を閉ぢ籠めてしまふ弊癖は、僕の生涯に纏はりつく一ばん運命的な呪ひでありませう。僕は塗るべきゴム鞠を放たらかしておいて、結局病氣だからと斷つて、催促に來た小僧にそれを背負はして返しました。さうして著物などを一つ一つ賣るやうになりました。

『大變前置きが長くなりましたが、僕が三日飯を食なかつたのは、此の結局に來たのです。八月の末でした。僕はいよ〳〵著のみ著のまゝとなりました。机と二枚の蒲團はありましたが、それは室代の抵當に入つてゐて、宿から僕が借りてゐることになつてゐました。食事は近所の飯屋へ行つてゐたのですが、一杯の飯だつて貸しなどはしません、また貸すのだつて、僕には貸して呉れさう云へないのです。たゞ先に云ふ新聞配達をやつてゐる友達から、それまでに一二度少しの金を借りました。それで一文の金もなくなつてしまひ、賣るものもなくなつてしまひましても、もうまたと無心に行くのが嫌です。飯時になると、僕は飯屋へ行くやうな振をして宿を出ました。そしてたゞぐる〳〵と近所を一廻り歩いて來たり、また五六町ばかり隔つた所の一町驛の待合室へ數時間を過ごしに行つたりしました。

『それで宿の人は誤魔化せましたが、物を食はない自分の腹は誤魔化せません。が、腹を膨らせるには總て金を出さねばなりません。たゞ、金を出さないでも求められるものが一つあります。それは水です。けれどもこの空氣について地上に澤山ある筈のものも、今はさう容易には只で得る譯に行きません。水に滿た鐵管は、市街の下を縱横に通じてゐます。水の出る所は到る處にあります。しかしその多くは一間何圓と云ふ工賃を家賃の數に應じて年々何圓といふ稅を納めることの出來る人々の家の內に開かれてゐます。路傍に立つてゐるのでもやはり若干の料金を出して區役所から貸下げて貰つた、所謂『水道の鍵』を持つてゐる人でなければ、それから水を出すことが出來ません。それですから只で飲めるところは澤山はないのです。幸ひに宿で水道稅の割前までは別に取りませんでしたから、僕は宿で飲みました。また停車場では、そこの洗面所で、無論汽車のお客樣のために設けたものですが、別に番人がついてゐるのではないので、寛に遠慮して飲ませて貰ひました。何しろ暑い八月の事で、いくら飲んでも、眞逆飯の代りに水を詰込んでゐるとは思はれる心配はありません。その點では安心でした。

『少し餘談になりますが、東京の貧民窟ではこの水を飲んで腹を張らせるのをキンチャブと云ひ、燒芋と水とで濟ませるのをカハゴエと云ふさうです。チャブとは恐らく水のチャブ〳〵鳴る音を取つて現はしたので、カハゴエは附近に川越といふ甘藷の名産地がありますから、その名を付けた意味は解りますが、キンチャブの方はその意がお解りですか。キンは金魚の略です。金魚のやうに水をガブ〳〵呑んでゐる、それでキンチャブです。夏が來ると、東京の市中を縫つもの硝子の器に金魚を入れて賣り歩きます。その涼しい、夏の慰みのものに、餓ゑて、しかも水でそれを紛らしてゐる自分達の狀態を結び附けたのは、如何にもいぢらしい、無限のあはれさを含んで居ることでは御座いませんか。

『さて、そのキンチャブを僕は三日續けました。もとよりキンチャブが永久に續けられるものではなし、また續けようとも思つては居りません。いづれ仕事を見付けるなり、友達か先生から合力を乞ふなりしなければ成らないとは思つてゐましたが、仕事と云つても、もう身體一つの資本のもので、土方にでもなるより外はありません。か、それがやはり屈辱のやうな氣がして、成らうと思ひません。それかと云つて無心に行くのも嫌である。その二つの嫌が、餓ゑた胃を水と一緒に突張つてゐたのでした。

『が、餓ゑの感じは彌々と強く加はつて來ました。二日目の夕方、停車場から歸り掛けますと脚は腰の半分から下が僕の支配を離れて、歩一歩脚を動かすのに、から、飯を食はさないぢや喰附いて行くのは難だと云つてるやうに、後の地面に縫つてしまはうとするのを感じました。胃袋は胃袋で一杯に入つてゐる水を無慚にタブ〳〵突張らせて、こんなものぢやないんだ、飢じい〳〵と云つてゐます。凹んだ腹では身體を眞直支へてゐるのに疲れて、方々の筋が痛く硬くなりながら、もう今に俺はぶつりと切れてやるぞと云つてゐます。眼は眼で、絕えず瞬きをして眼の玉を前へ押し出すやうにしてゐないと、直に奧の方へ滑り込んでしまひさうです。僕はその足で友達の處を尋ねようかと思ひました。けれどもやはり尋ねてからの云ひ出し難さを考へると、どうも行く氣になりません。僕は宿へかへつて寢てしまひました。

新春詩壇

歲朝晴雪

一等　京城　吳台善

大球公轉始。皇極泰辰北。寶曆歲須終。氣和展大東。天行常健々。海岳迎新。年紀太忽々。備今倍昔神。一陽初復後。門飾松頭碧。萬化殺觀中。旗飄日脚紅。天時方改易。梅馥傳雲樹。人事顯亨通。橘苞上月纖。六花瑞玉府。梁苑詩應唱。萬樹花銀叢。剡溪興未窮。溪岑寒霧捲。盈尺歌陰德。符瑞疇緜。告三賀歲功。醉權同友伴。日暖羅陳雨。禮拜亞冠童。水聲谷冽風。候潮雜咸集。那絕煕垓想。俗習綮水沖。願同化育工。勞心憂白屋。田被九州遷。朝晉尚[illegible]等。遂歸四海同。陽春歌有曲。銀海環三壞。樂歲氣同融。玉山出半空。但言新歲願。宇宙休戰發。幸使文化年。豐。於皇帝德氣充。佛生開國發。品物歸。一殿若大德肖。嘆。庶功際泰運。繁華連市巷。箱葉撫俯美。瑞色繞玉宮。椒花映日照。新時徵世紀。競日情何極。獻賀拜天公。堺年志尚雄。間離隨俗子。處世修玄默。擢我信天翁。奉竟表赤衷。

當推曆卷。格法正曆。韶調沈博。

二等　沃川　宋在昊

一望漫々白。江山昨日非。擲風還滅力。瑞旭倍添輝。淺浅兒童喜。明侵士女衣。乾坤新放眼。拂杖出柴扉。

後歸自然工。

二等　義州　崔聖律

東風新節律。瑞雪詔明晴。高遷飛雁滅。千門旭日明。素對迎詩域。消賞破愁城。今節逢佳景。瀰陶和藥觥。

湊合無痕

二等　江華　趙章煥

元朝新雪晴。賀客滿街行。銀屋千村富。梨花滿樹明。積多雖喜歿。寒甚佳裘輕。痛瑟攜山路。迎年未解兵。

風格老成

三等　江西　金軸鏈

昨夜驚寒雪。晴光興歲新。跡雖尋舊臉。賞好及詩晨。庭瓦鶴足竹。稻印馬蹄銀。細數瓊花六。枯林早迎春。

鶴足馬蹄一奩　極工

三等　飛崴　秋毓榮

北陸寒初盡。雪晴正値春。白三占歲熟。出六妬花新。疾瘦方滑耳。衣冠共賀晨。貞安猶一臥。瑯瑞豈無人。

七八雛相露。通儒有邊

三等　開慶　辛杓鎬

六花新獻瑞。萬姓賀文明。比物無加白。令人得玉淸。江山開玉局。草木發春榮。帝令生靈活。新元際歲精。

三四氣象渾融

新年文藝

◇俳句◇

題『双六』

餅を切る袋を造りぬ絵双六
客の灯に一家集いぬ絵双六
女將に訪ひ來ぬ絵双六
父上は脆くも負けぬ絵双六
朝鮮の名所めぐりぬ絵双六
僅かなる一家うれしや絵双六
双六に更けて瞬く灯影かな
双六も飽きて寢ね三日哉
顏捧扱く瓣なる女や絵双六
絵双六はてし戸外は吹雪哉
双六に禮服の徳交りけり
肩秀でたる小供や絵双六
二階には父の斎や絵双六
小さき肩を動かす兒等や絵双六
双六の泊り重ね夜明けたり
歌留多さへ喧騷かし絵双六
双六や雛鳴く庭の夕明り
双六に更けて窓の響きかな
只々と憩子口みぬ絵双六
詩酒の醉を談ずる父や絵双六
お座敷に華かな灯や絵双六
双六の賽が轉けし疊かな
双六に妹がさかしき瞳かな
春らしき雨の夕べや絵双六
双六の灯に醉ふ小さき瞳哉

三等

京城南山町一七　白倉すゞ子
留守居子に暇嬌り居り絵双六

京城南大門通三丁目[illegible]支店内　松岡曉洋
双六に勝ちて貰ひし笛かな

[illegible]　西村秋芳
双六に負けたる母の唱歌かな

二等

仁川[illegible]所内　明石水の夜
双六や我が子人の子皆うれし

元山泉町四丁目三　内山溪思
兒等皆の和ごき瞳や絵双六

一等

京城[illegible]　梶原隠山
疲れ踏ねて双六の兒が皆起る

◇佛英兩首相問答
海洋自由問題＝ウ氏語りて曰く

【巴里來電】佛國首相クレマンソー氏は下院に於て述て曰く「海洋の自由問題に就き英國首相ロイドジョージ氏は予に語りて曰く『貴下は英國の援助無くば戰爭を繼行すること能はざりしことを承認するならん』と予は之に肯定的返答を與へたり、更に英首相は『海洋の自由に就き佛國は米國の見解に反對の行動を執るの意ありや』と問ひたるを以て予は『否』と答へたり是に就きウィルソン氏は予に語りて曰く予は貴下の述たる所に賛成す予が各聯合國政府に提議せんとする所は毫も英首相に對する貴下の返答を變更せしむるが如きものに非ず」と（東京特電）

◇豫備會議繼續

【巴里電】豫備會議は四月まで繼續さる可し（倫敦電報）

◇支那講和委員聲明

支那講和委員は紐育にて聲明して曰く支那は會議に於て膠州灣の還付及び支那と他の各國民と同等位置に置くやう國際通商關係を改訂せんことを求むべし（紐育電報）

◇潛艇降服手續

獨逸潛航艇五十隻は更に近く降服手續を終る可しと期待さる（香港電報）

◇獨土斷交

獨逸對土耳其間の國交斷絶せり（桑港電報）

◇エベルト政府危機

【巴里電報】エベルト政府は各方面の信任漸く失墜し危機に瀕せり勞働黨中央委員は政府組織の歩武を進めつつあり（東京電報）

◇獨逸各地靜謐

【伯林電報】フィン沿線地方を除く外獨逸各地は一般に靜謐なり（巴里電報）

◇前獨帝問題交渉

獨逸宰相エベルトは前獨逸皇帝の件に就き和蘭政府と交渉中なるが其結果は尚ほ不明なり（アムステルダム電報）

◇前獨皇后危篤

前獨逸皇后は危篤にて命旦夕に迫り前帝亦[illegible]なり（倫敦電報）

◇軍事債務免除説

倫敦にては米國が聯合諸國の大戰中の功績を多とする意味に於て其米國に對する軍事債務を免除せんとするの突飛なる風説あり（紐育電報）

◇英選擧結果
＝政府黨の大勝＝

【倫敦特電】英國總選擧の結果は二十八日の開票に依り判明せるが其所に達したる情報に依れば政府黨四百七十名にて內自由黨百三十七統一黨二百三十三勞働黨百又政府反對黨二百二十六內自由黨三十七統一黨四十六勞働黨六十五シンフエン黨七十三不明十五其他政府黨なるや反政府黨なるや不明一名あり從來の議員定數六百七十名に比し七百六名となれるが新選擧法に依れるが爲めにして定員數は七百十一名なり尚ほアスキス氏は落選しロイドジョージ氏はカーナーヴオンに於いて無所屬オースチン、ハリソンが一千九十五票を得たるに對し一萬三千九百九十三票の多數を以て當選し政府黨は大勝を得たり（東京特電）

國民黨の總選擧にて更に多數を占む可しと豫期されたる勞働黨が却て失脚せるは著しく目立ちたりヘンダーソン氏の落選は世人の意外とする所にして又ニューカツスルに於て愛蘭事務大臣ショート氏が大多數を得て勞働黨に勝ちたるも又意外とする所なりアスキス氏の落選は大評判にて氏の落選は聯合派の勢力絶大なるを示せり（倫敦電報）

◇三氏講和商議

倫敦タイムス紙は曰く十二月二十七日の會議には米大統領英首相[illegible]求むる所ありたり（倫敦電報）

◇邦人殺傷問題

[illegible]

◇露國秩序恢復

倫敦諸新聞の報道に據れば露國過激派は同國內の秩序を完全に恢復し諸工場は逐次再開し食物分配も改善され人心恐怖の念漸く薄らぎ全國を通じ治安[illegible]に行はれ居れり（桑港電報）

◇大海軍建造聲明

米國海軍卿は海軍委員に告て曰く假令ヴエルサイユ會議が海軍縮小に賛成せずとも米國は世界無比の海軍を建造せざる可らずと（華盛頓電報）

◇日米支運賃値下問題

米國々務卿は聲明して曰く米國と日支兩國間の船荷運賃値下問題協定の爲め船舶管理局員の會議を開く可き手筈を整へたりと（華盛頓電報）

◇廣東議和交渉協議

廣東軍政府は北方が陝西より軍隊撤退を中止せざるに於ては議和交渉を中止すべく協議せり（廣東特電）

◇出征艦隊謝電

十二月二十七日衆議院より出征艦隊に慰問感謝の意を表せるに對し三十日衆議院議長宛黒井第三艦隊司令長官千坂第一特務艦隊司令官古川港務艦長より謝電あり（東京電）

内田外相試筆

◎新光搖蕩

▲總督府　夜來の微雨通路に打水して己未元旦の倭城臺總督府に至る間は朝來馬車人力車自動車を驅りて參賀紳の劍光帽影參差として大禮服に輝く勳章大綬と相映じ陸續として正面玄關に入る是より先總督府總督室には午前九時を云ふに正面に御眞影を奉安し國分司法部長官總督代理として侍立在京勅任官以上朝鮮貴族有力者並に奏任官及び判任官各總代の拜賀を受け政務總監室に設へたる祝宴に屠蘇の盃を擧げて聖壽の萬歲を祝く閔李王職長官は李王李太王兩殿下御名代として拜賀祝辭併奏方依頼の上退出し斯て正午十二時全く式を終る

▲昌德宮　李王同妃兩殿下には元旦午前九時三十分宣政殿に御成りあり閔長官國分次官以下文武官朝鮮貴族より祝賀を受けさせられたるが午後一時昌德宮御出門德壽宮に赴かれ李太王殿下に新年御挨拶を申述べられ午後三時還宮相成りたり尚二日は午後二時より宣政殿に於て宇都宮軍司令官以下一般文武官の祝賀を受けさせられたり

各地の新年

▲釜山　元旦の牛暖かかりしに引換へ二日は氣溫減切り降下して零下五六度に引締りたるが朝來山之運送店、明治屋、近藤商店近江屋、荻野商店其他府內商店にては夫々午前二時頃より印袢纏に身を固め赤の八巻の扮裝勇ましき人夫にて初荷積出しを爲し空裏き曉の街の空氣も大正八年商賈繁昌と平和の幸福とを闡明し忙頗る景氣付きて見受けられたり（釜山特電）

▲馬山　朝來微雨強風あり府廳の拜賀式擧行後官民名刺交換會あり二日は晴天となれり（馬山特電）

▲清津　吹雪荒れし正午小學校に官民祝賀會を催し盛況を呈せり（清津特電）

▲新義州　天氣晴朗寒氣強し各學校に拜賀式あり午前十一時より公會堂にて名刺交換會ありたり（安東特電）

▲安東縣　夜來の雪晴れ風強く寒威劇し領事館、各學校にては拜賀式を擧行し午前十一時半より民團役所にて名刺交換會ありたり（安東特電）

野田遞相試筆

▲大連　關東都督府拜賀式は午前十一時より擧行せるが所屬官吏二百名餘參列せり又都督不在の爲め一般の參賀は鈴木外事總長之れを受けたり又大連民政署長缺員の爲め田中警務課長代つて參賀を受けたり▲午前十一時より大連實業倶樂部に新年名刺交換會あり參會者八百六十名石本市長の祝辭にて陛下の萬歲を三唱盃を擧げて各自の健康を祝し十一時半散會せり（大連特電）

▲奉天　夜來の大吹雪名殘なく歇み風稍強けれども旭日輝々として東天に冲し市內は各戶共國旗を掲揚し七五三飾を爲し頗に大戰終了一年の新年氣分漲り渡れり午前十時より領事館にて官民多數の名刺交換會擧行さる市中は同殿の車馬織るが如く盛況を呈せり氣溫零下二十一度なり（奉天特電）

▲間島　夜來降雪紛々氣溫零下二十二度正午領事館にて拜賀式擧行せり市中は輸出入貿易の好調に因り近年稀なる好景氣なり（間島特電）

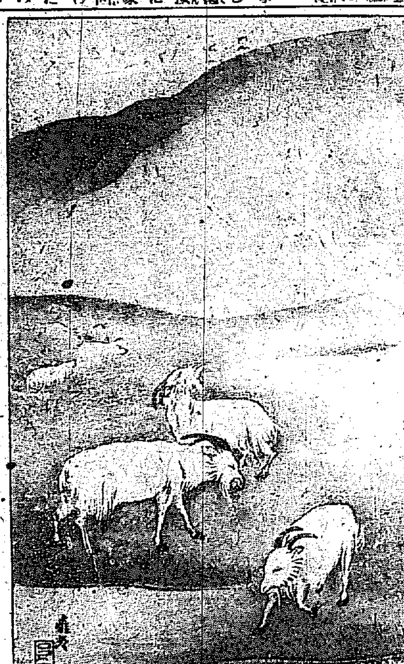
◎世界大戰の一教訓（上）
田中陸相談

四年有餘に亘れる世界大戰は軍事的見地より多大の教訓を與へ吾人は深く之を調査研究して國軍の改善進歩に資せむことを期しつゝあり此等の專門的軍事は姑く別とし茲に交戰諸國の實施せる國家總動員及び今次休戰以來著々實施しつゝある國家總復員に關し一言を試みむとす

▲全智全能を傾け一事　從來の戰爭に於て動員なる語は直接交戰に從事する人馬材料を移動充足し軍を平時狀態より戰時の編制に移すに使用せしが這次戰爭に於て交戰月を累ね年を閲するに從ひ各交戰國は各其の一物の微に至る迄之を戰爭に供し以て餘すところなからむことを期し國內の有する資源と施設とを統制按配して之を戰爭遂行上最も有效に使用し得る狀態に移せる所謂國家總動員と稱する者にして實に今回の大戰の產物と謂ふを妨げず而して交戰諸國の多くは國家總動員に關し殆ど準備なくして戰爭に臨み且つ戰爭繼續期の推測容易ならざるが爲め其施設多くは應急的にして必要の迫るに從ひ逐次各般の措置を採り事の彌縫姑息に流れ又統一的に實施し得ざりし者尠からざりしは已むを得ざるところなるべし獨り米國は之に反し局外に在りて平靜に交戰諸國の施設を觀察し且成敗

▲得失を調査し諸國の嘗めたる苦き經驗を研究し充分なる教訓を收め得たるが故に其實施せる國家總動員は爾他の諸國に比し遙に計畫的統一的に實行せられ其の無盡の天產と不測の巨富と相俟て規模の宏大なる歐洲交戰列強の比に非らず而も尚ほ諸般の施設豫期の如く神速なる能はずして未だ其の行程の半途に在りて既に休戰を迎ふるに至れり此の事實に徵するも國家的動員の至難事業たるを想察し得べく況や米國に比し物質的に遙に低位に在る國に於ておや國家總動員を實施せる交戰國は休戰と共に國家總復員に着手しつゝあり彪大なる陸軍の復員に伴ふ

▲勞働問題の處理工業復員の實施等複雜せる難事業多きも各國は夙に思ひを茲に馳せ交戰尚酣なるの時より著々之が研究調査を進め施設するところありし結果既に整然たる計畫成り啻に戰前の狀態を恢興するのみならず此の機會を利用して國家業務の事物を革新改善する目的を有し更に將來の國家總動員實施上の利便を深く顧念し今や既に準備の時期を過ぎ實施期に入らむとしつゝあり



◇羊　橋本雅邦

◎朝鮮產馬獎勵
出征軍馬三百頭の拂下

軍高級參謀山本中佐の談に曰く朝鮮に於ける內地種馬匹の繁殖を圖るは農耕により見るも國防上より見るも誠に重要なる問題たり殊に軍事上の見地より到底今日の如く半島に馬匹の僅少なるものゝみ存在するを許さず軍にては出來得る限りの方法を講じ內地種馬匹の增殖を企圖せざるべからず陸軍にては今回右の趣旨に基づく一面として西伯利に出征せる名古屋師團並に其他各隊所屬軍馬の一部が本月下旬より順次歸還するに際し之と共に來鮮の事となりたるを以て內三百頭を京城並に釜山の兩地に於て希望者に對し拂下ぐる事となれり右軍馬中には或は西伯利亞の酷寒に遇いて多少劣弱となりたるものもあるべきが大部分は尚ほ軍馬として優に使用に堪ゆるものなり又拂下の時期は一月下旬より二月に亘るべく方法は競賣による事となるらん

◎歸還兵輸送期
一月下旬より

西伯利出征部隊は一部を除く外近く大部分を內地へ引揚ぐる事となりし旨は陸軍省にて發表したるが右歸還隊の輸送は一月下旬より開始すべく朝鮮鐵道にても夫々對應策を講じつゝあり然るに今回の歸還隊輸送は滿鐵經由釜山乘船のみにならんか鮮鐵の輸送力の減殺夥しく財界の受くる影響甚大なるに付一部分を釜山乘船一部分を大連乘船となすべく更に東清鐵道の輸送力關係にて一時に多數の軍隊を南下せしめ得ざるとする滿鐵の輸送力に鑑み長春奉天等にて兵員軍需品の調節を行ふべく京城にても相當部隊の一時的滯留を見る事となるやも圖られずと

◎三島頭取東上

殖產銀行頭取三島太郎氏は三日午前八時四十分南大門驛發列車にて出發す

廣に三日滯在の後東上二月上旬歸鮮すべし

◎釋尾氏東上

朝鮮及び滿洲社長釋尾旭邦氏は往復約三週間の豫定を以て三日朝出發東上す可し

歲旦祝辭
忠南道長官　桑原八司

斗柄一轉茲に午歲を送りて未歲を迎ふ昨年は咸北に於て產業上及び軍事上の見地より內鮮馬匹の增殖改良を唱導し各郡に種牡馬を置き之れが實施に着手し漸く途に城津より內地に鮮馬の輸出を見るに至れり而して總督府に於ても之れに對する確議ありと云ふ洵に會心の喜びに堪へず然るに忠南に於ても成歡及び新禮院に牧馬場あり將來興味ある問題に屬すべし本年は世界戰亂の結果帝國自作自給の方針に基づき羊類の增殖改良も亦必要を生ぜり同じく共に斎斯の歲に當たり吉祥緣ならずとせんや羊類飼養の必要は世已に定論ありて茲に喋々するを須ひず然るに其飼養すべき種類及び方法等は實地研究を要する所なれば官と云はず民と云はず熱心協力調査を重ね之れが解決せざるべからず講和の議成りて世界平和の回復將に近きにあらんとす戰後の經營は尤も愼重に考慮を要す而して飼羊も亦其重要問題の一たるを失はざるべし茲に歲首に際し敢て所感を披瀝して祝辭と爲す

◎歲末の鮮銀券

十二月二十二日より二十八日に至る一週間の鮮銀券發行平均高は一億八百八十二萬圓にして週末の發行高は一億一千三百八十六萬一千圓を示せり尚ほ制限外の發行は一千六百九十六萬六千圓なりき

附錄　四頁（本紙共八頁）

□大塊邸より鷄軒居へ　三闕庵主上京早速大塊遞相邸に相合ひ御近狀を詳にせり例に依り一句うなり出し御機嫌伺ひに代へ申候。鳥兎長官始め諸兄に宜しく願上候。

十二月廿七日　三笑人　大塊

年を忘れ友三人や高麗笑ひ　虎耳

海こへて師走忘るゝ都哉　無佛

高麗たより聞く長き夜を忘れけり

返句

町人となつて忙はしき師走哉　鷄軒

鳥瞰錄

元旦の正午頃軍司令官の官邸へ年賀に行くと正裝の將軍はニコ〳〵し乍ら集まり來る陸軍將校の賀禮を受けてゐる▲大食堂には大野參謀長、山本高級參謀半澤高級副官を始め二十名ばかりの陸軍將校が高談放論してゐた▲[illegible]縱橫を以て朝鮮の陸軍內に鳴る山本高級參謀の如きは『吾が軍司令部の一番酒飲みで一番阿呆だと信じてゐるが司令官閣下は其點より尚ほ一枚上の阿呆ちやと云はれるので恐縮してゐる』と抔と司令官を前に据ゑて談じてゐた▲高島師團長の官邸では從卒が二人許り玄關にゐて上つて來る賀客は逃さず食堂に引上げてゐる師團長の氣焔は祝盃と共に上つてゐた▲久保滿鐵理事の舍宅は夫人令息令孃何れも歸東中とあり主人公は若い書生と三人の女中の淋しい迎年▲食堂には燕[illegible]流る如き主人公が控へて人見鐵道局長や滿鐵高級社員の賀客が充ちてゐる▲『今朝は雉子料理の雜煮を然よ』とは主人公のお話し然し食堂の料理はホテルと千代本から來てゐた▲川上東拓理事は自分で飲めぬので例により便利を持つて客に勸めてゐた▲入り交り立ち交り賀客は廣い食堂に絶えない▲美濃部總裁は白頭を振りてゐる食堂は持地長官やその他賀賀の人が充滿してゐた▲三島殖銀頭取は夫人と共に迎客してゐた氏は在城古き關係厚きため廻禮者の來往が却々多い▲濕顏の主人公は今年始めて山茶花が溫室で咲いたなどと卓上に据へられた白い花を快ようさうに見てゐる▲嘉納鮮銀副總裁の永樂町御殿は御殿の前に三臺も自動車が並んでゐて食堂の賑やかさが思はれる夕方なので鳥の子は押上るのを遠慮した▲何時も乍ら景氣のよいのは總長邸で樂隊などがブカ〳〵ドン〳〵やつて居た

◇歲末財界

[illegible]

◎豫風雨報

[illegible]▲示度七百五十耗▲方向東▲[illegible]

▲八白▼深入すべからざる日なり[illegible]は吉にて丑寅（東北）は凶なり▲九紫▲花の如く華やかなる日にて何か嬉しき事あるべし萬事吉▼一白▲あまり面白からざる日也▼二黑▲頗く愉快なる日にて[illegible]

白眼學舍編纂◆四六版天金布製　定價一圓郵稅八錢
白星算命術
白眼子先生面會時間　鑑定毎日自前九時至後二時　休業火、金曜の午前及午後
一人事一般の鑑定に限り　鑑定料不要　どなたでもお出なさい
小石川白山神社鳥居前　白眼學舍
發賣所　東京日本橋通一ノ大東社

賀正
大正製藥株式會社
駒澤佐一郎

簿記　通學　寄宿　校外　生募集
一月六日より授業開始
東京市芝區櫻川町十一番地　私立日本簿記專修學校

謹賀新年
京城府龍山京町三十五番地
山下コークス製造所（長電一四四番）

一月號の壯觀　本號は三百數十頁　本號に限り四十錢
鮮滿之工業
新春に際し愛讀諸彥に告ぐ　社長　坪川寅次郎
發行所　京城旭町一ノ七一　鮮滿之工業社　振替東京三四九七

新春大寫眞提供
大活劇　クレートウアイタダグラフ社傑作　偵察飛行　雄大篇
舊劇　丸橋忠彌　全五巻　尾上松之助中村扇太郎大合同劇
滑稽劇　珍探偵　全貳巻
元旦より五日間　大正館

謹賀新年
釀造用具商
廣島市天神町　兒玉商店　長電話七四四番　振替大阪一四二七番
大阪市東區北久太郎町四　兒玉大阪支店　振替大阪四〇六六八番

（明治三十九年九月八日第三種郵便物認可）

露領民地、土耳其の將來等あり尚英首相は海洋に關し[illegible]規に就いて英國の傳來的見解を主張し將來の國際法に於て國際聯盟問題こなすには論據不充分なれど發給處分以上の事をなす能はず損[illegible]の結合を確保せんが爲め強き決心を示し同時に償金問題に就ても要害賠償に就ては多少の[illegible]を出す事に盡力すべし(上海電報)

[illegible]形勢を呈せり但し新春資金の回收は順調ならんこ觀測さる(東京特電)

宮中の新年

晴御膳を終らせて後……◇

正殿に群臣を引いて御受賀あらせらる

＝御風氣により四方拜の御儀は行はれず＝

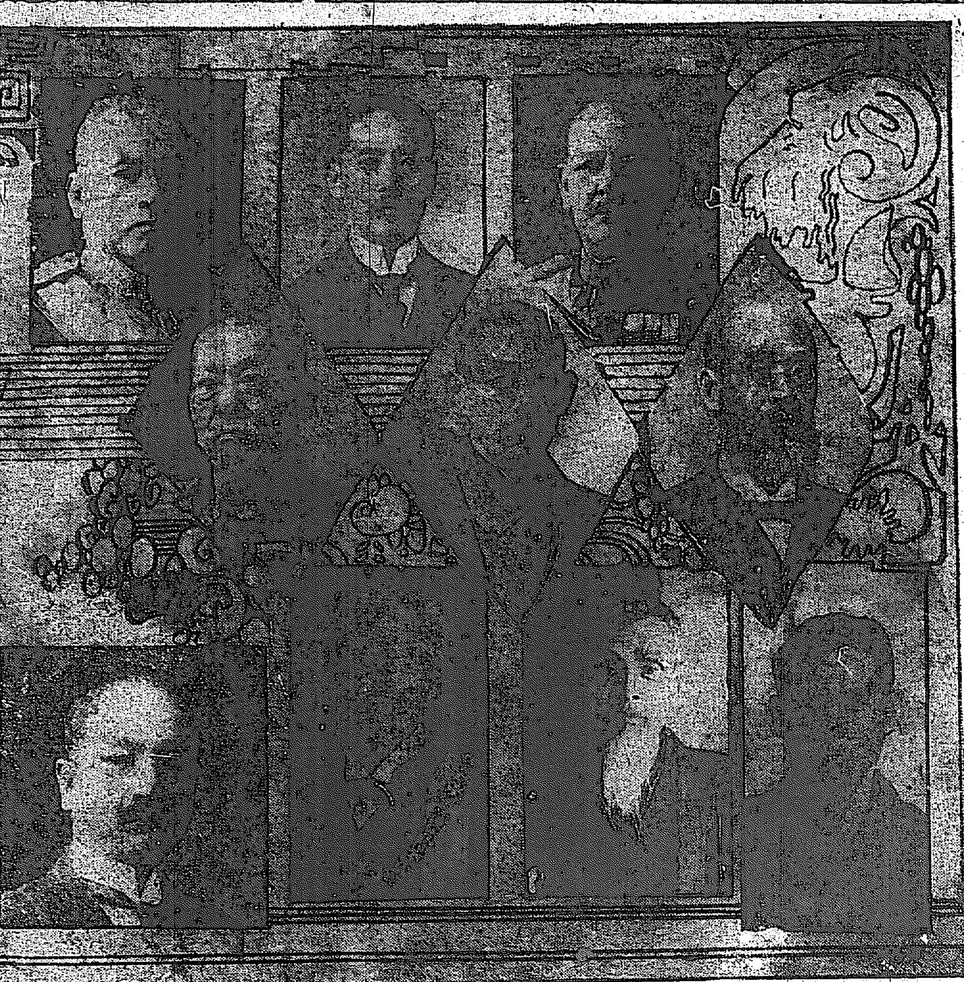
陛下御風氣は既に御快癒相成りたれご侍醫の御薦めに依り四方拜の御儀は行はれず賢所大前の歲旦祭には御代拜を遣はされ七時半晴の御膳を聞し召されたる上同十時鳳凰間にて各皇族方の拜賀を受けさせられ次で皇族同妃殿下侍從長宮相其他を從へ正殿に出御あり　陛下には金光燦き御正裝　皇后陛下には高貴の模樣を織りなしたる御大禮服ローブ、デ、コルテを召され出御の際は二十名の公達交代に御裳を奉持して進む樣云はん方なくみやびやかに拜せられ斯くて式部官侍立の下に原首相以下の拜賀を受けさせられ午後二時よりは英國大使以下の拜賀を受けられ御機嫌麗はしく入御相成りたり(東京特電)

平和第一年の元旦

◇◇劍光帽影晴れの正裝美々し◇◇

總督府裡祝盃擧がる

元旦の總督府は朝來拜賀の客で賑つた例年ならば總督官邸で受賀式が行はれる所であるが本年は長谷川總督寒支の爲め式場を總督府總督室に變更され國分司法部長官代つて賀辭を受ける事となつた、前夜の細雨に倭城臺の坂道は帶目正しい跡も滑々しく埃一つ立たぬ間を金色燦たる大禮服に大經勳章を佩した今日の晴の正裝した各部長官局長其他勅任官の面々松飾り目出度き正面の玄關から式場へと參入する李王李太王の御名代閔李王職長官を始め朝鮮貴族同じく宮服侍位服の威儀を正して來る南山の翠綠は之等の劍光帽影こ相對して[illegible]氣四遊を空め世界平和の第一新年を祝ぐ客が陸續こして馳せ集まり祝盃を擧げて退出して行つた



未年の名流

(上右より)秋山好古將軍、尾崎行雄氏、杉孫七郎子爵(中)大槻文彦博士、坪內逍遙博士、原口參謀將軍(下)浮田和民博士、內藤鳴雪氏、松方老侯、大木遠吉伯

名刺交換會

陛下の萬歲を三唱して……

京城の新年名刺交換會は元旦の午前十時から南大門小學校々庭に於て芽出度く行はれた定刻に先立ち朝野の文武官を始め多數の官民受附より名簿を受け取りて天幕張りの會場に集まる斯くして開會を待つ內場の構面に當り煙火起るや谷京城府尹は先づ壇上に立ちて開會の辭を讀み泰平の御代を壽ほぎ國運の隆昌を祝した次に松永京畿道長官壇上に現はれ氏の發聲にて會衆一同天皇陛下萬歲を三唱し各自盃を擧げて濁りなき芽出度さを祝ひ漸次散會したが前夜來の西風猶歇まず寒風さへ加はりたるにも拘らず國分松永兩長官を始め遞信司法院長美濃部鮮銀總裁外數百名の參會者があつた

初春の京城神社に

詣り上る人々

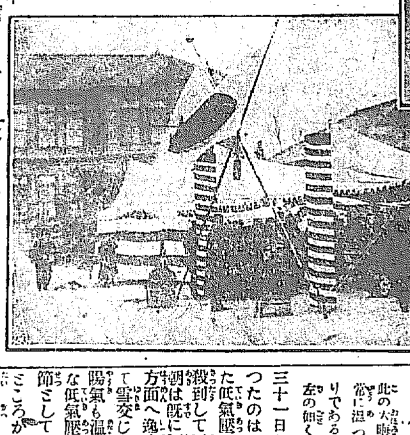
京城神社は由緒ある氏神樣、早旦より年內の祈願を懸けるもの數を知らず神前の鈴勇ましく鳴り響きて終日拜殿前に人を集めたるが例によりて各券番の藝妓連胡出の春衣裳其儘こつてりした富士額を甃にあて、永當々々の客運を祈る、重ね紋付の褄にこぼる・門松の一葉二葉や襟にさして鼠鳴きする舞子のあどけなさも風情あり一の華表前には自用車の俥の數々梶棒に群衆を分け、下つて中流以下の若夫婦連假令姿に金釵の頭を飾るなく郎に仙臺のキュッこした裾捌きなきも四海同春千里同風何れも目出度さは自分等ばかりこいはぬ許りなるが押合ひ混み合ひたり

元旦の街

婦人の外出多く……

晴れ衣裳華々しき

大正八年の元旦は大戰後初めての新年こて宇內萬戶に飜る國旗も春風に千代を壽ぐが如く綠いや增す松竹梅の門飾りと新なる平和の年を迎へて一しほ芽出度し上は專門學校より下は小學校に至るまで何れも午前九時に登校して君が代の唱歌に千代を祝ひ四通八達の電車は小さき國旗を交叉して春風に飜しつゝ綺羅飾る男女を載せて東西南北に馳走し暮引き廻せる大路小路には追羽子の音長閑に双袂を振つて少女の遊ぶ樂さ島田の娘丸髷の赤手柄も我を忘れて羽子板に心を奪れつゝ春風に醉ふ心地よさ春の氣は誰の心にも動きて市內の人出は未曾有の光景を呈し微醺を帶びたる年賀客の往來は街々に充ち昨年は餘り目立たざりし婦人の外出も殊の外多く晴れ衣裳も華々しく匂やかに一層の賑ひを增したり



◇新年祝賀の爲に◇

(上)外人の總督府參賀こ(下)名刺交換會

大連は吹雪の元旦

稀有の寒さ

前夜(三十一日)來より吹き募れる烈風歇まず曉方より降雪ありて大風雪こ變じ氣溫零下十七度に低下して稀有の寒さなりしも午後に至り快晴こなれる爲め市中は廻禮者にて賑ひたり(大連特電)

元旦の夜 東京荒る

沼津に海嘯起り旅客避難す

東京附近は一日夜八時頃より突如暴風雨となり元旦の市中を荒し廻り同九時半頃最も猛威を逞しふし同十一時頃より漸次鎭靜に歸したるが郡山其他東京附近にて電信電話の不通となりしものあり沼津、田子の浦一帶は同夜八時半頃突如海嘯起り小中多少の被害あり小田原方面は旅客の避難する者多し(東京特電)

越後丸坐礁す

元日咸北連津にて風雪のため

乘客四百名は無事

朝鮮郵船會社の越後丸(千二百噸)は元日午前五時咸北富寧郡連津(淸津北方)(最近報)にて坐礁乘客四百名孰れも無事同午後二時淸津より鏡城丸遭難地に急航せるが破損の箇所は第一船艙その他なり(淸津特電)

▲救助の見込なし

船艙機關部全く沒水す

右に付朝鮮郵船當局は曰く越後丸は浦鹽から淸津へ歸航の途中風雪のために連津沖で坐礁をしたやうです乘客の四百名こ云ふのは浦鹽から北鮮並に山東省に歸還する

◇勞働者多數を載せてゐたからです貨物も大分あるらしいが尙ほ詳細の事は明かでありません船は北海道本間氏の所有で昨秋會社に傭船したのであるから會社こしては船その者の被害に就ては損失を受けぬけれど叉直ちに代船の手配を要するので差し向き困つた問題である叉損傷は一番船二番船艙機關部皆浸水し安全な所は艫の方だけらしいのご場所が難所であり季節は風浪の高い時だから到底

◇救助の見込はあるまい尙ほ鏡城丸が遭難地に急行したれど風のため引返したので更に淸津から出帆救助に向ふ事になつて居り恐らく既に出帆したでせう元日早々からの難船で乘客に非常な迷惑をかけ氣の毒の次第である

初獵

朝鮮狩獵會では松の內の休みを利用して遠征に出掛けた者が二三あつた中でも木本京電取締、吉田九介、高岡憲一、龍二江、內田淸の五氏は二日早朝自動車を走らせて臨津江に向つた豫定は約四日間であるがウンこ獲物をせしめ狩獵會に鼻を高く仕樣こ云ふ計畫ださうである

漢江結氷

漢江は二日の寒氣にて全く凍結し對岸この氷上往來を爲し得るに至れり

珍らしく暖かい元日

一夜に卅度下る

◇汗を拭き〳〵南山へ

今歲の元日ほど暖かい元日は恐らく空前の事であらう、こいふのは元日の午前六時の溫度が華氏にするこ三十五度弱らこいふ高溫こ昇つたのであるから元日の朝に南山の阪を登つて京城神社へ參拜する連中の內には汗を拭き〳〵異口同音に斯んな暖かい元日は

◇珍らしいこ云つてる

たが午後から風が吹き出て次第に寒くなり夜になつては寒さが益々募り二日午前六時の溫度は攝氏氷點下十五度に低下して之れを華氏に直しても五度であるから一晝夜の內殆んご三十度も氣溫が下つた譯である何れ詳しい事は測候所から發表するであらうが何しろ珍らしい元日であつた

▽華氏三度

＝珍ご前例のない寒さ＝

一兩日は寒い

此の大晦日から元日の朝にかけて非常に溫かであつたのは別項の通りであるが右に就て京城測候所員は左の如く語つた

三十一日から元日の朝まで溫暖かつたのは三十一日渤海方面から來た低氣壓(七四八)が意外に急速に襲到して西鮮地方を掠めて元日の朝は既に江原道の沖合から日本海方面へ逸走した爲に其通過に際して雪交じりの雲が極少し許降つて陽氣も溫かであつたが斯んな深厚な低氣壓が襲來したのは此頃の季節こして全く番狂はせであつた、こころが其通過した後は冬季の常態に歸らうこするのが當然であつて其後へ滿洲北部に高氣壓が現はれて其示度七百七十四粍に及び氣候の傾斜は僞に二十五度の差を見るに至つたのである、故に一日朝の內が些し溫かつたのみで夫より次第に大陸の寒氣を齎して寒波(コールドヴエア)を及ぼしたから二日朝に至つて益々冷却して京城の如き攝氏氷點下十五度(華氏三度)に及び且つ全鮮に亘つて西北風が吹き荒んだものであるから全鮮中最も溫度の高かつた木浦(三日午前六時零下一)でさへ北の寒風が人膚の肌に苦しく感じたのである、而して此寒威は高氣壓が依然支那中部に固定して暫くは繼續する見込であるからこゝ一兩日は寒氣が嚴くこ見て差支なからう因に二日朝(午前六時)に於ける各地の溫度は左の如くである

楚山	零下二三	雄基	零下二九
龍岩浦	零下二一	平壤城津同	一九
京城仁川同	一五	元山	零下一四
全州江陵	〇	七 釜山	零下三
木浦	〇、一		

◇福運を祈り終へて……(元日京城神社にて)

釜山の火事

歲末十二月三十日の午後二時三十分頃釜山富平町三丁目六十一番地立石直作方二階より發火し伊藤別莊及び横江川鐵工所に延燒したるも昨日に比し風少きに歲末人出多き頃この爲め漸く兩家は半燒にて午後四時頃鎭火したるが其原因は立石鐵鋼製造工場二階の一部にある鮮人職工寢室にて火元不取締の結果衣類より燃ね擴まりたる模樣にて其損害は立石工場製造機械四十臺及び原料製品を總括すれば二萬圓以上にて半燒こなれる横江川鐵工所伊藤別邸も各々三千餘圓に上るべき模樣にて全部にては約三萬圓位なるべしこの事なるが目下詳細取調中なり(釜山)

京城の……初火事

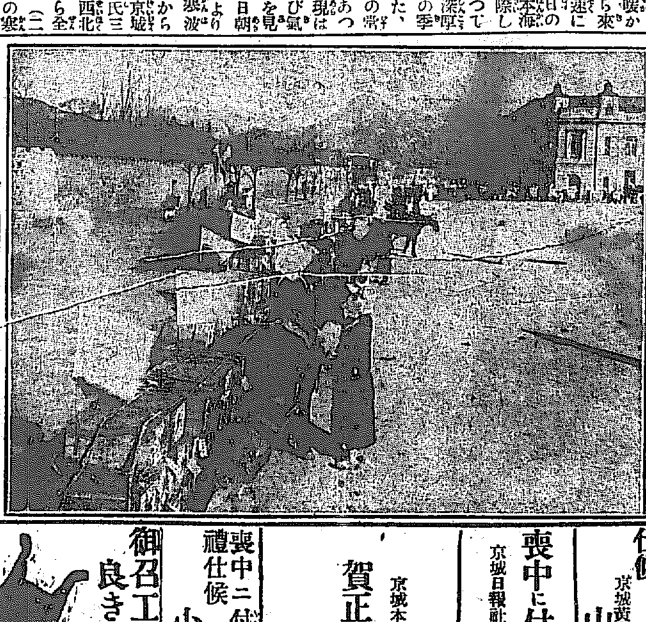
◇吉野町の溫突

一日午前一時京城吉野町番地不詳洪政雲方溫突より發火し溫突二間を燒失して鎭火せるが損害は約三百圓なりこ

▽南大門通り

二日の眞夜中

二日午前二時廿分京城南大門通二丁目三番地米穀商金度柱方より發火し本町署よりは今瀨、元町、黃金町、南山町、南大門の各消防組及び京城消防組等出動して消防に努めたる結果同三時頃に至りて鎭火したるが原因は溫突の熱焦より暗際に積堆せる燃炭に燃移りたるもの・如く損害約六千圓なり



□初荷　森久商店の初荷出廻及び龍壽洋行染料

初荷

零下十七度の街に

◇木遣の掛聲勇ましく

靜謐に暮れた元日に引替て二日の京城市中は例年の通り早朝から初荷を搬ぶ車馬の響きこ勇ましい木遣の掛聲等こに活氣横溢の觀を呈した各會社運送店商店等は何れも景氣よく染上げた初荷の馬車や荷車に屋號染拔きの旗を立て番頭店員等は揃ひの法被姿勇ましく攝氏零下十七度こ云ふ酷烈な寒氣を物こもせず朝來の好晴に新年の瑞氣漲る街上に繰り出したので本町通りや黃金町通り南大門通り等は轍の響きこ木遣の聲こに賑つた

亂暴な支那兵

哈爾賓驛守備の支那兵は我が兵が驛構內出入を遮ぎりしより我が兵は之を意こせず通過せしに該兵は停車場守備中の支那兵隊を召集し一齊射擊を爲せしかば急報に接し約一個中隊の兵現場に馳せ付けしも支那兵の姿は見えず夜明け直ちに支那側旅團司令官謝罪使を派し事なきを得たるが我某中佐は騷動の際頸部に擦過傷を受けたり(哈爾賓電報)

演藝

▲有樂館　元旦より[illegible]にて蓋開けの筈なりしも都合により左の寫眞を取替[illegible]▲大活劇軍事探偵死▲孤兒[illegible]

□お斷り　三日五日は新刊のみ發行し四日六日は祝祭日の翌日に付定例休刊す

一月八日(舊十一月[illegible]日)[illegible]

[illegible]ならば決行して損の行かぬ日

六白▲福運の降りかゝる樣な日

七赤▲寶を授かるべき美事なる日で意外の引立を受くるや知れず

喪中に付年末年始缺禮仕候　京城本町　篠崎半助

旅行中年賀缺禮仕候　松崎時勉

賀正　京城本町二丁目　川合時計店　電話一九一八番

喪中に付年頭欠禮仕候　京城黃金町二丁目　山香正吉

喪中に付年賀缺禮　京城日報社　松尾茂吉

賀正　京城本町二丁目　岩田鞄店　電話五九四番

喪中ニ付年末年始缺禮仕候　小川三之介

御召工合良き靴々　東京芝區櫻田伏見町角　內田靴鞄問屋　電話[illegible]

京日案內　定價表　[illegible]

ストーブ大見切　京城北米倉町電話長一五四六番　金物商　有好傳吉

御袴仕立專門　格好能く迅速　京城本町四ノ一五　山崎商店

簿記係入用　希望者は自筆履歷書携帶[illegible]　南大門外　齋藤商店

毛皮なめし並仕立　[illegible]

ほねつぎ　[illegible]　柔術道場

砂金高價買入れ　御一報次第出張可仕候　京城旭町一の七　中村分析所

◎昨年對外貿易

▲昨年概況 昨年一月より[illegible]超過を示せり之れを昨年同期に比較すれば貿易總額に於て九億五千八萬一千圓(五割二分九厘)を減少せり即ち左表の如し(單位千圓)[illegible]和の曙光を漏らしたれば取敢ず[illegible]爭ら十一月を以て休戰期に入り年[illegible]七千圓にして内輸出總額五十四億[illegible]七千零六十二圓にして差引一億八[illegible]れたるもの五億二千九百五十一萬[illegible]内に含有せざるものと知るべし(農商務省發表)

◎釜山魚市場水揚

[illegible]の水揚をなし會社創立以來の新記録を造りたる程の盛況を呈せるが[illegible]漁ありし太刀、石首魚[illegible]底の増加せると又打續ける[illegible]垂とする水揚高を示すに至る盛況を極めしものなりと

三輪井上両醫學博士御方劑
仁丹
本舗 大阪市 森下博藥房

奉賀 戰捷新春

仁丹本舗

世界大戰要録

聯合國、(宣戰布告を爲したる諸國)
大日本、英吉利、北米合衆國、佛蘭西、伊太利、支那、葡萄牙、塞耳比亞、希臘、羅馬尼、暹羅、伯剌西爾、聖山國、グアテマラ、リベリア、巴奈馬、玖馬、サンマリノ
(國交を斷切したる諸國)
埃及、ボリヴィア、ホンヂュラス、ニカラグア、ヘイチ、サンドミンゴ、コスタリカ、秘露、ウルグエー、エクアトル、阿爾然丁

敵國
獨逸、墺太利、洪牙利、土耳古、勃牙利

大戰の經過

大正三年
六月廿八日、墺洪國皇儲フエルヂナント大公及妃サラエヴオに於て暗殺せらる
七月廿八日、墺洪國對塞宣戰
八月 一日、獨逸對露宣戰
三日、獨逸對佛宣戰
四日、英國對獨宣戰
十日、佛國對墺洪宣戰
十二日、英國對墺洪宣戰
十六日、英軍佛國上陸
廿三日、日本對獨宣戰
日本軍青島砲擊
十月九日、獨軍白耳義首都アントワープ占領
十日、白耳義政府佛國アーヴルに移る
十一月七日、青島陷落
十二月廿四日、獨逸始めて英國に空中襲撃を行ふ
大正四年
一月廿四日、英國海軍北海ドーガーバンク沖に勝つ
二月十八日、獨逸英國に對し潜水艇封鎖を始む
五月 四日、伊太利三國同盟條約を破棄す
廿三日、伊太利對墺洪宣戰
八月四日、ワルソー陷落
大正五年
五月廿四日、英國徴兵案法律となる
八月廿七日、伊太利對獨宣戰
十月廿四日、ヴエルダンに於て佛軍勝つ
大正六年
三月十二日、露國の革命
十八日、英軍ペロンヌ占領
四月五日、米國對獨宣戰
九月 三日、リガ陷落
十五日、露國共和布告
十月廿九日、ウヂーネ陷落
十二月 一日、聯合國會議パリーに開催せらる
十二月十五日、露獨休戰(廿八日間)條約調印
十九日、露國内亂擴大
大正七年
三月三日、露獨媾和條約調印
十一日、獨逸飛行機パリーを襲ひ死者百名を出す
露國政府モスクワ市に移る
廿一日、獨軍スカルプ河よりオアーズの間約六十哩に渉り大攻勢開始
廿三日、獨軍パリーに對し長距離砲撃を行ふ
ペロンヌ陷落
廿八日、モンヂデエ陷落
四月十四日、フオッシュ將軍聯合軍總司令官に任せらる
五月十八日、米國第三回自由公債四十億七千一萬九千六百五十弗を集む
七月十六日、獨軍ランス、ソアソン間の攻勢を開始す
廿七日、露國廢帝銃殺せらる
八月十七日、日本軍浦鹽上陸開始
九月 一日、聯合軍アルベール、ショールヌ、ノアイヨン、ペロンヌ等奪回大に進出す
九月 四日、聯合軍引續き進出
廿六日、勃國休戰提議
十月 四日、勃王退位
十九日、墺軍占領地撤退開始
廿九日、伊軍大捷ボヘミア獨立
三十日、土國休戰條約調印
十一月七日、セダン陷落
十一日、獨乙休戰條約調印
十二日、獨帝退位

金言

各人皆正しくば勇氣の必要はあらざるべし　アゼシロース

新年附錄　其五

大内三日祭の御儀
＝賢所兩殿御前祭と元始祭＝

◇御前祭

前兩日に同じく今朝元始祭に先立ちて長くも　陛下には九條掌典長以下をして賢所皇靈殿及び神殿の御前を祭らしめらる是れ三日祭なり先づ大内山の

松ケ枝に耀き

渡る旭の影も未だ昇らぬ午前七時頃掌典次長以下の諸員に依つて御殿の裝飾隈なく整へば戸田式部長官伊藤次長始め式部職員一同順次著床す斯くて玲瓏たる樂は芝樂長以下の樂師に依つて奉仕さると同時に賢所皇靈殿神殿の御扉は音もなくいと靜かに開かれて御洗米御酒御餅等の神饌は祭官の手に依つて供へらる此時九條掌典長起立して

御祝詞を朗讀し

奉る滿殿寂として聲なく殿の御内は寂然水を打ちたる如く聽て御祝詞の朗讀終るや再び神々しき樂の音は殿裡に冴え渡り同じく御神饌は順次に撤せられて各殿の御扉は徐ろに閉さる茲に於て戸田式部官以下の各員は床を起つて靜かに退出す

◇元始祭

今朝畏くも　陛下には御恒例に依り宮中に於て元始祭の御儀式を行はせらる午前九時御殿の裝飾の束帶掌典次長以下の諸員に依つて奉仕さるゝに及び戸田式部長官以下の

式部職官員は

順々に著床す斯くて樂長以下の樂師の奉仕する嚠喨たる樂の音につれて賢所皇靈殿及び神殿の御扉は祭官に開かれ御神饌は祭官に依て供せらる先づ賢所及び皇靈殿には折敷高坏六本立折櫃二十合酒二瓶神殿には飯餅海魚川魚野鳥水鳥海菜菓野菜菓作菓潮水(御盃)以上十一種を白木の臺に戴せ此の外に御酒二瓶を供へ奉る御幣物には

錦一巻紅白の

絹各一匹及び晒布二端を白木の作り臺にのせ各前に一臺宛を供す絶えなんとしては縷々として猶纏き纏かんとしては流水の岩にせゝらぐが如く悠々たる樂は茲に於て始めて歇む聽て親王、王、王世子、各殿下を始め奉り山縣公松方侯等の諸大勳位原總理大臣以下の國務大臣全權從一位勳一等一等官侯爵正二位二等以上麝香間祇候錦鷄間祇候の諸紳著床して

陛下の出御を

待ち奉る十時に至り　陛下は綾綺殿に渡御あり侍臣のお仕する御束帶を著させられ御手水の後九條掌典長の御前導にて賢所始御拜の御座に進ませらる茲に奉る諸員は同時に起立して迎へ奉る而して　陛下には御玉串を奉らせ御拜告文を奏させらる此の間朝山内掌典は御鈴を奉仕す嫋々と響く涼やかなる御鈴の裡に御拜を畢らせ給へる　陛下には同じく九條掌典長の前導にて入御あらせらる次に皇后陛下には桂袴の御禮装華やかに同じく九條掌典長の前導にて出御あらせられ

御拜あらせ

らるゝ御拜終つて入御あらせらるれば同時に皇太子殿下出でさせられて同じく玉串を奉りて御拜あらせらる次で御拜畢つて退下あらせらるゝに及び各親王、王、王世子殿下を始め奉り床の諸員より宮内省奏任官に至る迄順次拜禮さる聽て再び響く樂の音と共に御幣物及び神饌は順次に撤せられ御扉は靜かに閉さる是より各員は徐々退出す

正午十二時に

至れば戸田式部官以下の式部職官員は再び著床す茲に於て賢所皇靈殿神殿の御扉は靜かに開かれ同時より午後一時迄に亘りて伯爵子爵男爵の各華族從二位以下及び勳二等以下並に神佛各宗派管長の參拜あり次いで奏任官門跡寺院住職の參拜あり午後一時よりは判任官非判任官及び判任待遇の諸員の參拜あり愈午後二時に至り元始祭の御儀式は終らせらる

◇第四日

政始の御式

天皇陛下には明四日内閣へ出御遊ばされて政始の御式を行はせ給ふ先づ午前九時原内閣總理大臣始め床次、高橋、内田、田中、加藤、山本、野田、中橋の

各國務大臣

山縣樞密院議長、中隈會計檢査院長、岡警視總監、井上東京府知事等通常禮服を著用して宮城桔梗門内なる内閣へ參集す聽て　陛下には正親町侍從長以下を從へさせ給ひて出御あらせらるれば原首相始め各國務大臣以下　陛下を御迎へ申上げて著床す斯くて　陛下には玉座に著御あらせられて順次萬機を聞し召さるが先づ萬機を聞し召さるに當り

第一當に神宮

の事よりして始め給ふ神宮の事とは即ち前年十二月の末に於いて神宮祭主より同年中伊勢神宮に於ける諸祭典總て御滯り無く遂行仕候旨の屆出に依つて宮内大臣は『神宮祭主の申す、昨年中神事異なる事之無し』といふ事を奏上し奉る此の間　陛下には畏くも御起立遊ばさる各大臣は　陛下の御例に倣ひ奉りて同樣起立す是れが奏上の終るに及びて

原總理大臣は

各國の事を奏し奉りて動靜を仰ぐ而して是れが畢るに及びて　陛下には正親町侍從長以下を從へさせ給ひて帶に入御遊ばさる續いて各大臣以下順次に退出す(東京支局)

初夢
柳家　小さん口演

エ、春のお景氣にお馴染の滑稽を申上げます、世の中に御幣擔ぎと云つて些細な事を氣にする人がありますが、尤も緣起と云ふ者は祝ふものださうで、お客商賣、取別け花柳界などでは、大層緣起を云ふ事を氣に致します料理屋、待合、藝妓家などゝ來ると、朝などは先づ綺麗に掃除をしてから、何の呪になるか門口へもり鹽と云ふのを致します、隨つて忌み言葉と云ふものがありまして、お茶と云ふ事を、藝妓家と貸座敷では決して申しません。お互に『お茶挽』と云ふのみ嫌ふ所から藝妓屋の方では『お出花』と云ふ。成るべく藝妓衆に出のかゝる樣に、貸座敷では成るべくお客樣が澤山登樓るやうに『あがり花』と申します、一寸した事でも、門口へ物貰が立ちまして、『一文頂かして下さい』と云ふと、普通のお宅なら『出ていよ』と言つて斷りますが、藝妓家では斷りやうが違ひます、ごう違ふかと云ふと『最う皆出きつちまつたよ』と、斷りながら緣起をつけて居ります。それに又吾々の社會にも馬鹿な奴がありまして御幣を擔ぐ所から忌言葉と云ふのがあります、スル、ハヅス、切れる、マウなんて云ふことを決して言ひませぬ、ハヅスと云ふ言葉をごると言つて逃げます、夏期に向ひまするご、普通のお宅などは『あんまり暑いから障子を外さう』など、仰有るのを、吾々の方では『あまり暑いから、障子を取つて風を大入にしよう』なんて慾張つた奴があるもので……スルと云ふ言葉を當ると言つて逃げます、其故に、擂鉢の事を當り鉢、擂木の事を當り棒、硯箱の事を當り箱と申します、此當り箱に就て滑稽がありました、私が先年地方へ參りました時に、宿屋の女中に當り箱を貸して呉れと申したら、暫く怪訝な顏をして居りましたがやがて煙草盆を持つて參りましたが、是れは先方の判じようが巧妙う御座いました。商人衆の帳面に金錢出入帳と云ふのがありますが、可笑なもので、出の字を小さく書いて入の字を大きく書いてあります、是れに反對なのが船宿の帳面に、出船入船惠帳の出の字を大きく書いてありますが、皆々緣起を祝つての事で御座います。『出來合ひの家名目出度し年の市』と云ふ句が有ますが、歳の市へ參りますと何處の店でも緣起の宜い家號許り、鶴屋、龜屋、萬年屋、蓬萊屋……緣起の宜しい許りで、其の中に天貧棒を賣つて居ります者も緣起の宜しい事を商賣して居ります商人が天貧棒じや緣起が惡からうてんで、氣轉を利かして『サア來年中金廻りの宜い福棒だ〱』『福棒』と云ふ緣起で大層賣れましたが、買つた人はニコ〱者で、歸つて來てお女房に『オイおせき、此樣な緣起の宜い福棒を買つて來たぜ』は誠に人間と云ふものは面白いものでございます折しも正月の元日或大商人のお宅で今日は取分け緣起を祝つて居ります『アイお早う。ハイ〱お目出度う、イヤ今日は、他の日と違つて、元日は年の始め、月の始め、日の始め、一年の吉凶は元日にあるので、大切な日だからな、一同も其つもりでな。イヤ家内揃つて變りも無く新玉の年を迎へると云ふ、斯樣な目出度いことは有りません、ホイ佐兵衛さんや、元日早々何にも和郎さんに叱言を云ふ譯では有りませぬが、帳場の中にすわつて、額に八の字を寄せて帳面を弄つて居られると、何だか未だ大晦日が去らないようで節季じみて不可ない』番頭『是れはお咎めで恐れ入りました、御承知の如く、私は手を空けて居り升のが嫌ひで御座い升から、お雜煮を祝ふには未だ間も有らうと存じまして、只今大福帳を調べて居りました』主『ナニ大福帳……有難い、是は恐れ入りました、流石は大家の緣擔をする番頭さん丈有つて大福帳とは好い所へお氣が附かれた、左樣なら一日調べて居ても宜敷いよ』番『イエ、只今直に片付けます、『コレ小僧叱言を言ふ譯ではないが、何だつて帶を持つて居るんだ、今日は帶を持つては不可ない日だ雜煮を祝ふ準備も有らうから、早く奥へ往つて手傳を爲ろ、斯うやつて家内中にニコ〱して居るくらゐ目出度い事は有りません、雜煮が出來たら通知て呉れ、私はチヨイと奥へ往つて來る、オヽもう出來たか、コレ雜煮が出來たら此方へ早く出さんければ成りませぬよ、私は内儀に嫌さ……ズーッと列べたら、向ふの上座へ番頭から久助、萬次郎、榮吉、清之助と順に列べてお重詰めを喰つても喰はんでも出して置きなよ、支度が出來たら一同遠慮なく此方へ來てお膳に附いてお呉れよ、其處でお辭儀をして居られては困る、サアサア、久助、萬次郎、榮之助、榮三郎、一同此方へ這入つてお呉れ、『へイお目出度う御座います、『へイお目出度う御座います』『へイ御目出度う存じます、主『ハイ〱お目出度う……當年も先づ此の樣な御目出度い春を迎へて何より結構だ、サア〱お膳に附いてお雜煮を祝つてお呉れよ……』これで元日のお雜煮も濟み御主人は小僧を連れて御年始に御出掛けになり元日は無事に濟みました、それから翌二日の事で御座います、主『アア久助や、今日はな、寶船を買に來るだらうから、成るべく緣起の宜さうな者を呼んでお呉れ』久『へエ畏まりました』夜になりますと表を　寶『お寶々々々、寶船々々』と呼んで賣りに來ました、久『モシ旦那へ、寶船屋が參りました』主『今夜は目出度く初夢をみるのだ、寶船屋を呼んでお呉れ』久『へエ、寶船屋さん、寶『へイ〱お呼びになりましたか、主『寶船屋さんお前は何方からお出だい』寶『ヘエ〱船は此方から參りましたので入船でございます』主『ナニ入船だと、緣起が好い……有難いな、して一枚いくらだね』寶『へエ十枚四錢で……主『百枚は』寶『四十錢で』主『有難いナ、四といつて四と云はぬ所が宜い、何程有るか知らんが皆な買つても宜敷いが、大概マア何枚有りませう』寶『何枚と被仰ても數限り無く寶公のお年の數くらゐ有りませう　主『ナニ　私の年齢ぐらゐ……數限り無くある、有難い、嬉しいな、なか〱寶船屋さんは氣が利いて居るね有難い、大凡何枚あります』寶『左樣です、先づ千五六百枚も有りませうか　主『ウーン、さうかい、オイ番頭や、私の年齢が千五六百だとさ……悉皆買て仕舞ますよ、私の年を他人に買はれるこ不可ないからな……オイ私の紙入を持つてお出で」サア船屋さん、五圓札を一枚進けるからね、足らなければもつと進けるよ　寶『何う致しましてお剩りが參ります　主『マアお剩は要らないから取つてお置き……船屋さん、お前さんはお酒を飲んなさるかい　寶『へエお酒は龜の甲で　主『ナニ龜の甲……一々言ふことが緣起が好い嬉しいナア……船屋さん、何も無いがね有合せで一杯進けたいから、マア此方へお上り……番頭では不可ないから奥へお出な　寶『へエ左樣ならば御免を蒙りまして、奥の方へ鶴々とつッ這入りませうか　主『嬉しいナア言ふ事が……サア〱遠慮せずに此方へ鶴々と這入つてお呉れ早くお膳の支度をして持つてお出で……船屋さん、お住居は何所だい　寶『へイ高砂町で　主『高砂町結構な所へ御住居だね、彼の邊に私の知己が有ますよ、今度御立寄申さう　寶『へエ夫れが少し都合有つて轉宅致しました　主『御轉宅、何所へ　寶『長者町へ　主『何の邊だエ　寶エー其所も轉宅致しまして入船町へ　主『オヤ左樣かね、皆緣起の好い町だね、和家内は大勢かね　主『へエ内儀に小兒が三人御座います、主『小供衆はおいくつだエ　寶『七歲に五歲に三歲でございます　主『ホヽー七五三の子持とは目出度いね、此金は輕少だが、お前さん歸途に何かお子さん方に買つて往て下さい　寶『之は何うも有難う存じます　主『サアお酌をしませう何卒お重箱を開いて何か食つて下さい　寶『へエ左樣なら頂戴致します、イヤ是はお美事で御座いますな、牛蒡に、田作に、數の子で……へ、へ、御田作さん、田作で數々お目出度うとは如何で　主『恐れ入りましたね　寶『オヤ是は慈姑で、白髪昆布で至りますな、慈姑百まで妾しや九十九までと共に白髪の生ふるまで　主『面白いなア　寶『之れは乾瓢ですな乾瓢さんは三十になるやならずで、オットごつこい、大變々々、あぶなかつた　主『何を……寶『へエお目出度御座いますアツハヽヽ、あぶなかつた　主『サア澤山お飲みよ今夜は緣起の好い寶船屋さんの寶船を買つたから好い初夢をみるでせう　寶『へイ有難う存じます、モシ旦那、此の御當家を七福神に見立てました　主『それは有難い、如何云ふ譯で　寶『まづ旦那樣が斯うやつて福々して居らつしやるのは夷樣のやうで……主『成程、寶『唯今お酌をして下すつたお孃樣は辨天樣で……主『成程、寶船屋さん、それでは二福しか無いでは無いか　寶『へー、御商賣が呉服(五福)でございます』(完)

謹賀新年　釜山府　若松兔三郎

謹賀新年　釜山府廳　寺島利久

謹賀新年　釜山稅關　野手耐

謹賀新年　釜山稅關　芦田彌壽治

謹賀新年　釜山郵便局　神田喜三郎

謹賀新年　釜山郵便局　稻塚英太郎

謹賀新年　釜山郵便局　梶山周介　組橋又次郎　仁島貞男　渡邊弘太郎　(順次不同)

謹賀新年　釜山水産組合　林駒生

謹賀新年　釜山南濱町　大原庄太郎

謹賀新年　南滿洲鐵道株式會社京城管理局運輸課釜山派出員　鐵道院嘱託西部管理局運輸課釜山派出所主任　釜山驛長兼草梁驛長事務取扱　岡村正雄

謹賀新年　土木建築請負　釜山草梁　小原爲　電話一八四番

謹賀新年　慶尚北道廳　鈴木隆　申錫麟　岸秀次　吉松憲郎　大庭米三郎　新田麟平

謹賀新年　毎月五回定期航海　仁川　大連芝罘間　第二十一共同丸　屯數一千四百屯　速力十二海里　客室完備

阿波國共同汽船株式會社　仁川代理店 野口商會　大連代理店 政記公司　芝罘代理店 政記公司　元山代理店 田口回漕店　朝鮮鐵道主要驛と貨客連絡取扱ひ尙大連に於て上海並に靑島航路と連絡仕候

謹賀新年　(いろは順)
仁川花房町二丁目　豐田酒造場　電話六四六番
仁川花町二丁目　上城酒造場　電話七五八番
仁川松坂町一丁目　吉岡酒造場　電話長八二番
仁川松坂町一丁目　吉金酒造場
仁川寺町　高野酒造場　電話一四二番
仁川花町三丁目　山崎酒造場　電話一〇三番
仁川龍岡町　深見酒造場　電話一四八番

賀正　久原鑛業株式會社　鎭南浦製錬所　京城出張所　京城南山町二ノ三二　電話長一二一四番

謹賀新年　開城蔘業組合　電話五五番

謹賀新年
今般大邱驛貨物出入口前ニ設備完全ナル倉庫ヲ建設シ年中休暇ナク倉庫營業開始仕リ入庫品ニ對シテ最低利金融可申上尙ホ各銀行共簡易ニ御融通ノ途有之委託販賣ノ御依賴ニモ應ズベク候ニ付御高庇奉願候

輸移入貿易商　(う)　松前商店　大邱府本町二丁目　電話長六六三番
倉庫部　大邱府鄕町二丁目　電話七四四番
支店所在地　京城(明治町二丁目 電話二六三〇番)　釜山(本町三丁目 電話四一三番)　金泉(本町 電話一七番)

賀正　大邱府七星町　鈴木繰綿工場

大和武士の典型

壯烈鬼神も泣く

本社江戸特電によれば前の赤穗城主淺野內匠頭の舊臣大石內藏之助以下四十六名の浪士は、十五日未明本所松坂町なる吉良邸へ討ち入り首尾好く亡君の仇を報じたり。○事○、餘りに重大にして泰平の今日夢想だもせざりしところ、記者は是に對して今俄に徹底せる批判を試むる能はずと雖も、然も靜かに考ふるに今回の事たる、唐突に似て決して唐突にあらず。健忘ならざる讀者は尚記憶すべし。恰も昨年三月勅使江戸下向の折なりき、上野介は內匠頭を殿中に嘲弄して其禮法を知らざるを笑ふ、內匠頭憤に堪へず、刀を拔きて之を斬らんとして及ばず、却つて刃を殿中に揮ふに坐して切腹を命ぜられ、其所領を官沒せられたること。當時世人は內匠頭に多大の同情を寄すると共に其家臣の各々が如何なる態度に出づるかに注意したり。而して其多くは私かに復仇、殉死の中何れかを撰ぶべしと期待したるに、何ぞ知らん全く此期待は裏切られ、內藏助以下放蕩遊逸を事として又仇意なきもの如し。是を以て天下悉く之を嘲り、彼等も終に所謂元祿武士の域を出でざるものとして忘るゝともなく忘れ果てたるが、豈に知らんや彼等が放蕩遊逸は唯々吉良氏が戒心を解かせる爲にして、其裏面に於ては一意に身を挺して首領と謀り吉良の動靜を窺ひ、機の熟して時の到るを待ち居たるなり。今四十七士の擧を耳にするに及び吾人は深甚なる敬意を拂ふと共に其誠忠の念の厚く其行爲の壯烈なる、內藏助以下の臥薪嘗膽に對して鬼神も泣くべく泉下の亡君も以て瞑するに足らん。想ふに關ケ原以後の泰平に醉ひ驕奢淫逸の風日に[illegible]、今や[illegible]の時、四十七士の如き忠勇無比の士を見るは實に珍らしき事と云ふべく、其の道德上に及ぼす影響は[illegible]。あゝ四十七士、彼等は實に理想的武士の典型、武士道の權化と云ふべく、今日以後正に武士たるものゝ範とすべきなり。若し夫れ義士今後の處決に至りては、今俄かに論議すべき時機にあらずと雖も、然も一歩を誤らんか、幕府の威信は忽ちにして地に墜ち、延いて後世に物議の種を殘さんも知るべからず。去れば當局者たるもの須らく慎重審議、苟くも四十七士をして犬死せしむる事なく、國法の許す限り其人たるの面目を保たしめられん事を。吾人は全國民に代り敢て此一事を當局に要望せざるべからざるなり。

江戸特電(十二月十五日著)

◇赤穗浪士復仇 吉良上野介討たる

故淺野內匠頭の舊臣大石內藏助以下四十六士は白雪皚々たる十五日朝寅の刻(午前四時頃)本所松坂町なる吉良邸へ討入り首尾好く本懐を遂げ亡君の仇を報じたり(昨日號外再錄)

◇吉良震へ上る

上野介は義士討入ると知るや周章戰慄殆んど爲す所を知らず漸く心利きたる家臣の計らひにて炭小屋の中に隱れ居りし所を討ち取られたるものなりと

◎首級を揚ぐる迄 間十次郎の手柄

前後より討ち入りし一黨は更に猛烈な打ち破つて屋內に踏み込み立ち向ふ敵を相手に奮闘力戰せり、吉良家の人數は百數十人、忠勇の士も尠からざりしが何る事不意に出でたることとて一[illegible]

▲藻脫の殼 [illegible]一同『殘念』と一時は大いに落膽せしが心利きたる一人[illegible]手を差し入れ[illegible]溫氣あれば決して遠くは行かじ、と云ふに力を得て再び搜索に努めたり。[illegible]

▲雨の如く [illegible]上野介の所在は依然として知れず[illegible]しがこの時不圖炭小屋の中より[illegible]

▲長持樣の 物の上に[illegible]『汝は何奴なるぞ』[illegible]上野介の所在を申せ[illegible]一刀の下に斬り伏せたるが[illegible]不倶戴天の上野介なりと知るや一同は[illegible]

▲留めを刺し 先づ槍[illegible](江戸特電)

◇壯烈なる討入

四十七士の面々は前夜勢ひ三ケ所に集合祝盃を擧げ士氣を鼓舞したるが愈々當日となるや大石氏は一黨を表門組裏門組の二隊に分ち裏門組は吾が子主税を統領とし自らは表門組を率ゐて討入りたり。前日來の降雪尺餘に達し地上屋上白皚々たる中を我後れじと突進する樣頗る壯烈を極めたりと(江戸特電)

◇泉岳寺へ引揚

一黨は本懐を遂ぐるや直ちに吉良家裏門に勢揃ひをなし意氣揚々亡君の菩提所なる萬松山泉岳寺に引揚げたり(江戸特電)

◎街上祝盃を擧ぐ

勇ましき引揚の光景

一黨が勇ましい呼子の笛に裏門に集まつたのは四十六人、唯だ一人寺坂吉右衛門は缺いでゐる。右衛門は內藏助の命を受けて內匠頭內室瑤泉院へ報告の爲め、一黨に別れて前刻既に出發したのである。この夜一黨の傷を負うた者は、近松勘六、橫川勘平の二人のみ、然も重傷と云ふ程ではなかつた。一黨が表門を出たのは十五日卯の刻(午前六時頃)であつた。[illegible]三士を以て扶掖、次いで回向院の門前に廻り寺內に入つて、暫時休息しようとしたが、和尚は後難を恐れて是を拒んだ。と見ると門の向ふ側に一軒の酒屋があつて、今しも主人が戸を明ける所、大高源吾ら二三の士は鏡殺りの一樽を買ひ求め、街上(小樽を出した)[illegible]一同はその周圍に馳せ集つて盛んに祝盃を擧げた。時に大高源吾は例の『山を裂く力も折れて松の雪』富森助右衛門も『寒鳥の身はむしろゝゆく方か』の句を詠じ出した。嘸興想ふべしである、兎角する中夜は全く明け放れた。通りも多くなる。一黨は心私かに吉良家からの追躡、上杉家の來襲を待つたのであるが、その懸念は全く無用に歸したので、然らばと兩國橋手前を左へ、一ツ目河岸から汐留、金杉橋を渡り、泉岳寺に著いたのは恰度辰の刻(八時頃)雪に映ずる朝暾の光が眩しかつた(江戸特電)

◎一黨の氏名

本社記者の探知するところによれば討入りを決行したる四十七士の氏名、役向及び年齡左の如し(江戸特電)

家老 大石內藏助良雄(四四)▲同主税良金(一五)▲郡代 吉田忠左衛門兼亮(六二)▲同 原惣右衛門元辰(五五)▲足輕頭 用人 片岡源五右衛門高房(三六)▲大目附 間瀨久太夫正明(六二)▲同孫九郎正辰(二二)▲京都留守居 小野寺十內秀和(六二)▲同幸右衛門秀富(二七)▲物頭 磯貝十郎左衛門正久(二四)▲元留守居 堀部彌兵衛金丸(七六)▲馬廻 同安兵衛武庸(三三)▲[illegible]兵衛光延(六八)▲同十次郎光興(二五)▲同新六郎光風(二三)▲馬廻 近松勘六行重(三三)▲使番 富森助右衛門正因(三三)▲國繪圖奉行 潮田又之丞高教(三四)▲馬廻 赤埴源藏重賢(三四)▲武具奉行 奧田孫太夫重盛(五六)▲馬廻 同貞右衛門行高(二四)▲馬廻 矢田五郎右衛門助武(二八)▲同 大石瀨左衛門信清(二六)▲同 早水藤左衛門滿堯(三九)▲右筆 中村勘助正辰(四七)▲[illegible] 菅谷半之丞政利(三六)▲元馬廻 千葉三郎兵衛光忠(三三)▲馬廻 不破數右衛門正種(三三)▲馬廻 木村岡右衛門貞行(四五)▲[illegible] 貝賀彌左衛門友信(五三)▲近習 大高源吾忠雄(三二)▲札座奉行 岡島八十右衛門常樹(三六)▲近習 武林唯七隆重(三二)▲同 村松喜兵衛秀直(六二)▲同 三太夫高直(二七)▲扶持方奉行 倉橋傳助武幸(三二)▲[illegible] 杉野十平次次房(二七)▲中小姓 勝田新左衛門武堯(二七)▲金奉行 前原伊助宗房(三九)▲矢頭右衛門七教兼(一七)▲徒士 神崎與五郎則休(三七)▲同 橫川勘平宗利(三六)▲同 三村次郎左衛門包常(三六)▲足輕 寺坂吉右衛門信行(三八)

◎一黨の裝束

一黨は討入前、各自裝束を改めたが一黨中の副統領吉田忠左衛門の裝束は

頭巾――革、內革の筋を入れ甲形、八幡座色革三重縫、白毘は猩々緋。吹返は白羅紗、袖色の布裏をつけ、總廻りにさゝ縁を取り、縮緬の忍の緒を附し、內に兜の鉢金を入れて冠つた。

肌著――淺黃羽二重、綿入、腰切のもの。

著込――鎖帷子を著、兩臂には一重差の籠手を貫いて、それにも鎖が入つてゐる。

上著――黑小袖で裏は茶の縫紋をつけた。兩袖を短く縫ひ込み、胸巾を細形に縫ひつけたのは即ち味方の合印である。

股引――[illegible]そして緋足袋に[illegible]袖印には氏名を書きつけ[illegible]ため思ひぞつもる白雪を[illegible]

下帶――[illegible]の一首を短冊に認めて、頭巾の錣の裏に納めた、これは吉田忠左衛門の裝束であるが、他の諸士も略同樣なのである。

◎大石夫人を訪ふ

[illegible]大石夫人は[illegible]吉千代大三郎の二子と共に[illegible]方で佗しい日を送つて居る、[illegible]夫人を訪へば流石に[illegible]まあ、[illegible]ます、[illegible]內藏助も一時は[illegible]人だのと[illegible]で先づ何うやら武士の面目が立つと云ふもので御座います。それに付けても……感慨つたのか、此時夫人の頰には涙が光つた。

それにつけても私は何と云ふ馬鹿で御座いましやう。夫に彼んな深い所存があらうとは知らず今更愚癡などとは……さ假令一時にもせよ、お恨み申したのは吾ながら淺ましう御座いました。許して給も我夫樣……

夫人は斯う云つて、さめざめしく其の姿を伏し拜んだ。流石の賢婦人にも內藏助の本心は解らなかつたと見ゆる。(豐岡電話)

◎泉岳寺由來

淺野家の[illegible]內匠頭[illegible]泉岳寺は[illegible]宗に屬し[illegible]寬永十八年今の地に移せるものなり

□本紙二ページ

廣告

古具足買入 鎧、兜、鎖帷子、その他御拂物は御一報次第直樣參上仕る可く候 元祿堂

御料理仕出し 精々勉強仕候 一力樓

手打蕎麥 笊、盛りかけいろ〳〵 武藏屋

二百年前の京城日報

今からザット二百年前赤穗四十七士が吉良邸の雪を紅に染めて本懐を遂げた元祿十五年と云ふ年に今のやうな京城日報が今のやうに在つたならば果してドンナ形になるであらうか。[illegible]わが京城日報は[illegible]を馳驅して出來るだけ詳細に其光景を報道する。まあ元旦の屠蘇機嫌で讀みがてら讀んで御覽じろ。記者が特に赤穗義士を選んだのは[illegible]んだのである

謹賀新年 慶尙南道廳 佐々木藤太郎

謹賀新年 慶尙南道廳 佐々木正太

謹賀新年 慶尙南道廳 橫井二郎

謹賀新年 慶尙南道廳 車田篤 石井豐吉 淺原義雄

謹賀新年 釜山地方法院 晋州支廳 竹村昌計 新藤寛次郎

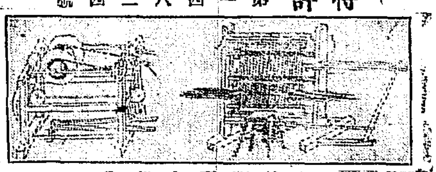
謹賀新年 大田德次郎 栗田作四郎 霜田松次郎

謹賀新年 慶尙南道 統營郡廳 職員一同

謹賀新年 慶尙南道 昌原郡廳 職員一同

謹賀新年 晋州榮町 長濱三郎 法律事務所

謹賀新年 日鮮號製繩莚叺機械 專賣特許 第一四五六五號 第一四八三四號



特約販賣店募集 製造發賣元 船津駒吉 大邱府東城町二丁目

專賣特許 清水引無砂精米麥機 吸入瓦斯發動 電氣モーター ベルト及ゴム類 其他付屬品一式 機械油類 其他中古品販賣

謹賀新年 釜山大廳町 釜山富平町一 電話八四一番 巴商會

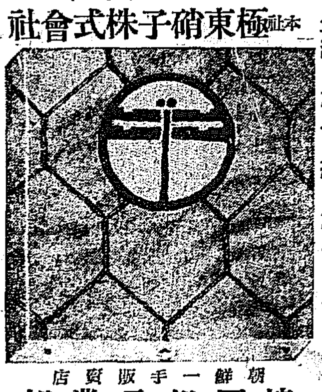
謹賀新年

釜山大廳町 大隅商店 舊馬山出張所 長電話八八九番 電話六六番

釜山大廳町 金井鑛業所 大隅善助 長電話八八九番

高辻汽船部元扱店 海運業 安東商會 釜山大廳町 長電話九二二番

謹賀新年 兵庫縣尼崎市 本社 極東硝子株式會社 金網入硝子 縞板硝子 磨板硝子 雲板硝子 摺板硝子 雪板砂子



朝鮮一手販賣店 協同組商業部 京城府南米倉町二一三(電話三二二)

謹賀新年 奉天十間房 奉天信託株式會社

謹賀新年 日東洋行 阪本格

謹賀新年 龍山元町三丁目 八景園 電話四六番

謹賀新年 (いろは順) 丹羽本次郎 角田宗治 高木幸夫 谷口又三郎 常盤松次 松井泰 古田雄 松浦良哉 深田楠之助 古市秋吉 圓藤安晉 田中彥一 守田賀之進 開原六 菅藤唯平 [illegible]

謹賀新年 安東縣旅館組合(次第不同) 花園旅館 電話三七三番 元寶館 電話四五番 安東旅館 電話五七番 日の出旅館 電話一四七番 富久壽美館 電話四七番 松屋旅館 電話一六六番

謹賀新年 營業科目 穀類 蘭系 牛皮 新炭 煙草 麻布 可部商會 龍山漢江通六番地 電略號カヘ又ハカ 電話長四一三番

謹賀新年 廣成商會製造煙草總販賣所 駿府商會 京城南大門通四丁目 電話二一六一番 振替京城三八四一番

中島早太郎 京城府漢江通十三番地 電話二六四番

志保子 (六十九)

北島春石作　森田久畫

くもり空(二)

もう十二月も中旬ちかければ、高い蒼空に陽が輝いて、そよりとの風のない時は、小春日和も長閑に散歩にお誂へ向だが、今日のやうな陰鬱な日には、炬燵へでも潜り込んで冬ごもりすべきに、態う／＼して家を飛出した以上、妻や子と顔を見合せるのも不愉快で、何だか都會から懸離れた山中へでも籠りたくさへ思はれた。

じつと一つところへ佇つてゐると、爪先から浸入るやうな凍痛さへ感じるので、雅巳は何處へと目的もなく動き出した。そして、漸く江戸川の電車停留場ちかくまで來かゝると、背後から靜に肩を叩かれた。

『何處へ行くのぢや。』

稱いて振返つた雅巳は强い反抗心に滿ちて肩を聳やかした。

『森泉の叔父さんですか。』

『さうぢや。』と、直樹は何事も氣注かぬ體で

『好いところで逢うた―今日はお前に些と話があるで、會社へ出かけぬ先にと澁谷から遣つて來たが、こゝで出逢うたは幸ひであつたよ。』

雅巳は急にいら／＼し始めながら『僕は急用を抱へてゐるので……今日は御免を被りたいものです。』

『會社へ行くのか。』

『さうです。』と頷いて『大分歳暮にも押し詰りましたから、近頃は非常に多忙を。初春にでもならねば、とても緩りお話を伺ふ機會はないでせう。』

『奇怪な?』と、直樹は不審顔『おると、俺が聞き違ひしたかな。』

雅巳は默した儘で叔父を睨めた

『なあ、今朝家を出際に聞いたがお前が關係して居る會社が破産したとの話を……いや、それとも老人の早耳かも知れん。』

『いづれか捨てたか捨てられたかこゝで詮議すべき必要は認めん。たゞ彼女は人の妻として尤も悄むべき罪を犯したんです。然し、近頃は親子三人が水いらずで暮してゐると聞くから、僕が不惑と知つたのは當て箝まらんかも知れんです。』

人から聞けるまゝを言つたのだが、直樹の一言を俺襲せるものと聞詰めて雅巳は不快さに强か眉を打顰めた。

『それが貴老に何の關係があるんですか、益もない詮鑿は見合せて戴きたいものです。』

『なる程、これは些と俺が出過ぎたやうぢや。まあまあ別に心あつて質ねた譯でないから惡く思うてくれるな。そこで、今日はさぞかし多忙でもあらうが、折角澁谷の奥から出かけたで、何うぞ都合がつくならば、俺のために一二時間の暇を割いてはくれまいか。』

先刻の詭訴に多少たりとも眞實が含まれたりとすれば、お葉から嘲けられた意地づくとしても、幸枝をわが手許に牽返すべきだと思へる矢先、雅巳はこゝで叔父に逢つたのを折よしとも感じられた。

『實は此方からでも御交渉いたしたい件があるので、今日は會社への出勤を見合せませう。』

『多忙なところを氣の毒であるが今日だけは老人の無理を通させてくれ。』と、雅巳の動くにつれて歩みを移しながら『さて話と云ふは他でもない……お前にもそれと推察されたらうが、實は志保子に關係した一條ぢや。』

『多分はさうと鑑定を……近頃叔父さんはお逢ひにでもなりましたか。』

『逢うたでもなくば又逢はぬとも言はぬが……志保子について多少考へた事があるかな。』

『はゝ、今こそあかの他人とはなつたものの、且つては妻と呼んだ覺えもあるから、多少考へぬこともありません。』

『さうか。で、何う考へたかのか聞かせてくれ。』

『志保子は不惑な女です。』

『何う云ふ意味で不惑と云ふのか。』

新年文藝

◇和　歌◇

『寄羊祝』

一　等

京城吉野町一ノ六九　木村　巴東

◎牧の野は靜かに明けて小羊のなごめる群に初日かかよふ

二　等

慶南晋州郡宋石里彼江神社　吉武　貞世

◎五歳の戰ひの野邊も靜まりて游ぶ羊に春はたけり

市内櫻井町二ノ二五　高須賀　歌

◎おのづから初日あふれて群遊ぶ羊の今朝は遲しきかな

三　等

龍山元町一ノ二六　中村　準助

◎靜かなる羊の年はおのづから世もやすらかに亦靜るかな

江原道春川邑往淵里　西村　秋芳

◎そろ／＼と牧場に向ふ羊等の乖れし毛並に初日かゞやく

京城花園町一二三　窪田　春暉

◎ほの／＼と昇る旭のはるかにも蒙古の原を羊行くなり

寫眞
寫眞銅版(亞鉛版) 寫眞出張撮影
迅速と親切を旨とし最も廉價に御高需に可應
京日寫眞製版部

秀逸

京城　月下　濱人

▲おほらかに群れ遊ぶ羊のめぐし見の一つ一つに陽は照れりけり

京城　曉

▲道のべの牧の日だまり羊群れて愛しつぶらの目を施べ居し

龍山　岡本惡仮吉

▲興行渡る牧場うらゝや初日の出受けてはばゆき小羊の顏

京城　芳斗

▲玉きはる命君故にいとほしみ此の雪路は羊守りつゝ

仁川　挪　賞

▲靜かなる赤土山の麓にも羊の群は新しと匿く

演藝案内

京城本町 電話五七八 壽座
正月三日ヨリ 義士の家中座女優劇直營演藝倶樂部
第壹 笑劇新年會 壹場
第貳 奇術 マル子孃出演
第三 喜劇『かまぼこ屋』三場
第四 奇術 紫蝶出演
第五 魔術應用劇『歐洲風呂』壹場
第六 奇術 マン洋出演
第七 社會劇『角帽燒』三場
第八 大魔術『美人の銃殺』マンマル靜演出
第九 喜劇『宇治の里』

米國ユニアサル會社特約 早川演藝部直營 活動寫眞常設館 有樂館 電話(長)二〇〇番
當る正月元日より提供
◎大活劇 米國ユ社青島特作映畫公開
◎悲劇『都の戀』全五巻 名女優ドロシーフイリップ孃出演
◎大探偵劇『軍事探偵の死』全三巻
◎大活劇 孤島奇談『幽靈船』全十八巻
◎お斷り 前記番組特作寫眞到着仕候故一時中止仕候

本町二丁目 電話一〇五〇 壽館
當ル一月元旦ヨリ 東都ニ於テ新時代浪曲ノ泰斗ト評セラレタル 京山愛三大一座開演

黄金館
新春と特別大興行(入場料普通)
大活劇 眞田大助 二十三巻
泰正 殘骸 全四巻
新派大悲劇 若き血の躍り

京城明治町 電話二六〇 浪花館
御祝儀 落語 落語 落語 落語 落語 西洋奇術 落語 ヴァイオリン合奏 少年落語手踊 人情笑話 大切所與

日本活動寫眞株式會社代理店 櫻井町 電話八七三 大正館
一月元旦より特別大興行
ニコ活劇『珍探偵』全二巻
戰爭映畫『偵察飛行』全五巻
舊劇『丸橋忠彌』全四巻

本町五丁目 電話三一八 文樂座
當る一月三日第三回替(午後二時開演)
浪花節應用中村福高一行
▲前狂言『由良湊千軒長者』
▲二ツ蝶々『蝶吉長五郎』
▲切 義士外傳『清水一角』

謹賀新年 京城永樂町二丁目 關繁太郎 電話四七六番

賀正 煙草 新貨商 京城永樂町二 二宮商店 電話一六九九番

謹賀新年 京城明治町一丁目 瀧川銃砲店 自轉車 電話三〇二一番 振替口座六三八番 支店 大田春日町 公州本町

謹賀新年 内外羊紙 各國産紙 卸商 京城南大門通一丁目 合資會社 渡邊商店 京城出張所 北國板紙製紙株式會社特約店 電話二一九〇六番

謹賀新年 京城南山町二丁目 山口太兵衛 電話七六二番

謹賀新年 京城櫻井町一丁目 酒 食料品 雜貨商 中井忠三 電話一七七番

謹賀新年 京城本町三丁目 果物 橋詰呉服店 電話一八〇一番

謹賀新年 京城南山町 秋吉富太郎 電話一四七番

謹賀新年 京城本町一丁目 ミナト帽子店 電話一六〇九番

謹賀新年 京城旭町一丁目 會席仕出 御料理 權平庵 中井ぬく 新年宴會は特に大勉強仕候 電話一〇四六番

謹賀新年 京城永樂町 佐藤磯治郎 電話一〇五八番

京城旭町一丁目 御料理 壽美家 電話一三四三番

謹賀新年 京城本町一丁目 東京天ぷら 料理仕出 松金 電話六八六番

謹賀新年 内外各國食料品一式 卸小賣 京城本町三 森川商店 (電話九三五番 二一〇七番) 富貴味噌製造元 森川萬富園工場 高陽郡平面內洞(獨立門外)

謹賀新年 京城本町二丁目 會席 御料理 梅の家 赤星きみ子 電話七三四番 電話七三五番 ▲新年宴會は特に勉強仕候

謹賀新年 金庫大釜 和洋家具 陳列戸棚 ストーブ タンス 銅鐵地金 諸官衙御用品 京城黄金町一丁目一四三番地 室武男商店 電話長一四二一番

謹賀新年 京城黄金町二丁目 自轉車及附屬品卸商 高居瀧三郎商店 電話一一九番 振替口座京城四六二八番

謹賀新年 和洋金物品商、建築金物、土木道具、大工道具、打物、鍋釜及金物荒物、世帶道具、麻縄、紡績マニラ綱糸類 京城本町一丁目 橋口金物店 電話一四二番 振替四九三番

謹賀新年 食料品 雜貨商 京城旭町一丁目 川西商店 電話一三六七番

謹賀新年 日用雜貨各種 雨傘 提灯 印入番傘 新聞張替 折箱各種 京城永樂町一丁目 石野商店 電話一五〇一番

謹賀新年 京城明治町一丁目 傘 提灯商 大島良吉 電話一六三五番

謹賀新年 慶尙北道蠶種業組合 古山德重

謹賀新年 大邱測候所 日詰忠完

謹賀新年 大邱公立農業學校 福島百藏

謹賀新年 大邱府上町 木村時計店 同 元町 同支店

謹賀新年 大邱府明治町 徐丙朝

謹賀新年 金泉驛前 河内屋旅館 電話一四番 丸金旅館 電話一五番 旭屋旅館 電話一〇番

謹賀新年 大邱稅關出張所 村井宰

謹賀新年 專賣局大邱出張所 前田邦寧

謹賀新年 富士商會

謹賀新年 大邱府東雲町 宮井正一 電話六四六番

謹賀新年 大邱府東雲町 中原房一 電話一一三番

謹賀新年 大邱藝妓置屋 大和 電話五三〇番 春の家 電話一〇三番 濱の家 豊島家 電話七一五番

謹賀新年 群山府大和町 群山齒科醫院 院長 日本齒科醫學士 野中松太郎

謹賀新年 慶尙北道 達城部廳員 一同

謹賀新年 天然スレート 屋根葺工事一式 石綿盤 ルーフィング 羊アスファルト フェルト 便利瓦 印 販賣 其他建築材料一式 淺野スレート會社工事所 岩出京城出張店 京城太平通二ノ八六 電話一六〇七番

謹賀新年 京城本町二丁目 貿易商 林田金次郎 電話六五番

謹賀新年 龍山榮町二七 度量衡器販賣 椋橋八十吉 藥種商 椋橋ミネ 產婆 椋橋勝次郎 雜貨商 電話三六番

謹賀新年 (次第不同)
龍山元町一 電話一五八番 味噌製造業 堀田マス
和洋服商 龍山元町二丁目 電話長五六番 川本衣服店
龍山元町二 電話四五二番 兒玉商店
西洋御料理 龍山元町二 電話四一二番 中央亭
薪炭商 龍山元町二 電話二七番 更科
和洋帖雜學校用品 龍山元町二 電話三〇八番 東山商店
龍山元町二 電話長四八番 富井呉服店
こまや 龍山元町二 電話一〇五番 植西呉服店
和洋服商 龍山元町二 電話三三二番 金子奥市
龍山元町二 電話六六二番 東屋洋物店
日用雜貨商 龍山元町二 電話三九番 松屋
雜貨商 龍山元町二 電話一〇四番 中谷稔藏
菓子商 龍山元町三 電話五一二番 花月軒
材木商 龍山元町三 電話五四三番 竹村久市
材木商 龍山元町三 電話四六四番 金應純
日用雜貨商 龍山元町四 電話四〇七番 京藤伊助
龍山製鹽所

謹賀新年 京釜線天安 米穀商 淺谷出張所

謹賀新年 平壤府旭町 丁字屋洋服店 電話長二七番

謹賀新年 平壤府南門町 久保順吉

薪炭問屋 入見商店 平壤府壽町

平壤府泉町 薪炭問屋 長岡商店 電話五二五番

平壤大和町 赤かべ

謹賀新年 内地旅行中に付年始の禮を缺く 松井民次郎 平壤壽町

謹賀新年 鎭南浦商盛會 岡部呉服店 塚本呉服店 巴商店 延田洋品店 松岡洋品店 濱田呉服店

米雜穀貿易商並ニ製鹽業 鎭南浦 櫻井商店 店主 櫻井秀之助 長電話三七番

謹賀新年 鎭南浦 齋藤精米所 店主 齋藤久太郎 電話長一四五番

鎭南浦中華民國領事館 胡襄

鎭南浦料理店組合 玉屋 大愛 朝日館

藤山商會鑛業所 藤山定七 平壤泉町

謹賀新年 歐米雜貨商 泰安洋行 平壤南門通一丁目

謹賀新年 醬油 味噌 煉瓦 瓦 平壤新町(電話一三五) 原田商店

陶磁器、洋燈、鍋釜、諸雜貨 卸商 中本商店 平壤館後里 電話五一番

薪炭商 黑川廣助 平壤壽町 電話一四四番

謹賀新年 平壤酒造業組合

賀正 安東美髮館 平壤壽町 ハイカラ床 平壤大和町 坪内理髮館 平壤大和町

謹賀新年 仁川山手町 會席 御料理 うろこ 電話六八番

謹賀新年 仁川山手町 御料理 銀水 電話一一一番

謹賀新年 銘酒白鶴特約店 仁川本町三丁目 增本酒店 電話長一〇九番

謹賀新年
承認仁川關稅貨物取扱人 仁川海岸町一丁目 電話一〇番 堀商會
仁川本町四丁目 電話八〇番 川井田商會
内國通運株式會社 仁川港町 電話二八番 出張所
仁川本町一丁目 慶田組
仁川本町 福島組 電話五九番
仁川本町四丁目 朝日組
仁川海岸町三丁目 電話五一番 協同組
仁川本町四丁目 電話二四八番 仁川通關組

謹賀新年 仁川仲町一丁目 船舶回漕 沒物斗量 艀船運送 大和組 電話五三八番

謹賀新年 仁川驛前 中村運送店 仁川支店 電話二八五番 電略マヌハ〇ナカ

謹賀新年 晉州旭町 松浦時計店 電話六四番

謹賀新年 晉州城外 印刷業 北川開文堂 電話五一番

謹賀新年 慶尙南道統營 統營海産物會社 電話四八番

謹賀新年 釜山水産株式會社 統營支店 電話一一番

謹賀新年 三千浦水産會社

謹賀新年 統營海産物販賣組合

謹賀新年 北野雄三郎 統營製網會社 電話四三番

謹賀新年 釜山大廳町 本木法律事務所

謹賀新年 釜山大廳町一丁目 武安法律事務所 電話七九番

謹賀新年 釜山大廳町一丁目 岡法律事務所 電話八二八番

謹賀新年 釜山大廳町一丁目 佐々木法律事務所 電話七六四番

謹賀新年 釜山大廳町一丁目 逢田梧樓法律事務所 電話八三七番

謹賀新年 釜山西町二丁目 泥川法律事務所 電話九三四番

謹賀新年 釜山富民町二丁目 植野法律事務所 電話九九一番

謹賀新年 釜山西町二丁目 田中内科醫院 電話四八〇

謹賀新年 釜山幸町二丁目 南部醫院 愛知醫學士 南部省三 電話一七六

謹賀新年 釜山富平町二丁目 入院隨意 安村病院 電話五一三番

謹賀新年 釜山琴平町 西村病院 電話七九七番

謹賀新年 釜山大廳町一丁目 久保病院 電話一六七番

謹賀新年 美術婦人小間物卸小賣 内外化粧品 讃岐商會支店 釜山辨天町二丁目 電話六六九番

謹賀新年 清酒 醬油醸造發賣元 釜山西町一丁目 福田商店 電話三五五番 振替京七五四

謹賀新年 京城旭町二丁目 御料理 咲良喜 電話一八二八番

謹賀新年 京城本町二丁目 有樂館東側 鳥料理 喜久家 電話一三八三番

謹賀新年 京城旭町二丁目 會席御料理 京喜久 電話三二五番

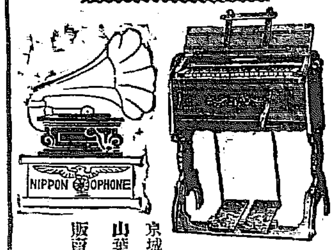
謹賀新年 京城旭町二丁目 御料理 いそべ 電話一一〇〇番

謹賀新年 京城南米倉町 御料理 春本 電話九〇九番

謹賀新年 京城旭町一丁目(黄鳥谷) 會席御料理 靜陽軒 電話一〇四三番 三〇七〇番

謹賀新年 京城壽町 御料理 松翠樓 電話長五七七番

謹賀新年



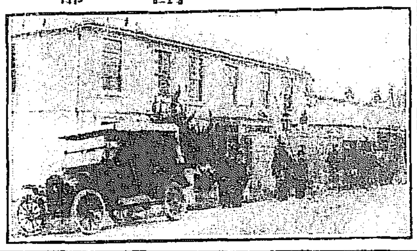
京城本町二丁目 日本蓄音器商會 電話一一八三番 振替京城六八四番

京城本町二丁目二十九番地 山葉樂器朝鮮代理店 販賣元 釘本樂器部 電話一一八三番

謹賀新年 ▲米穀及諸物品委託賣買 ▲雜貨販賣精米業絲綿業 群山府本町通 不二商業株式會社 電略フニ 長電話四七番 雜貨部電話一二七番 工場電話一一三番

謹賀新年 三南殖産株式會社 清州出張所 電話一四番 取締役 吉原治三郎 社員 石本盛治 同 申九鉉

謹賀新年 忠南道廳 憲兵隊 警察署 御指定 みのた旅館 並に箕田自轉車販賣部



謹賀新年 海陸貨物運送取扱 大阪商船株式會社專屬荷客取扱店 南滿洲鐵道株式會社貨物取扱店 帝國海上火災保險株式會社代理店 神戸市榮町三丁目 本店 山口合名會社 大連山縣通百六十五番地 電話長三六九番、五二四番、八〇二番、一一三四番、一二五一番 山口合名會社大連支店 山口運輸公司 神戸市榮町三丁目 山口合名會社神戸支店 大阪北區富島町 山口合名會社出張所

支店出張所及取引所 奉天 山口出張所 開原 山口出張所 公主嶺 山口出張所 窰門 山口荷扱所 旅順取引店 川久保洋行 撫順取引店 依田洋行 營口 山口出張所 鐵嶺 山口出張所 四平街 山口出張所 長春 山口支店 哈爾賓 山口出張所 遼陽取引店 高松運輸公司

謹賀新年 東洋畜産興業株式會社 電話長五六七、一七(重役室) 電略(トチ)

營業科目
一 畜牛貸付及預託
一 牛皮、豚毛皮、牛骨、牛脂、獸脂、獸骨の賣買
一 畜産物利用工業
一 牧畜並畜産に關する事業

本店所在地 京城府南大門通四丁目一二一番地
駐在員詰所 永原 大田 江景 金堤 榮山浦 沙里院 大邱 馬山 元山 平壤

謹賀新年 諸官廳御用 晉州旭町 杵島屋洋服店 店主 中島官四郎

謹賀新年 晉州旭町 日用品雜貨商 野方商店 電話一〇一番

謹賀新年 晉州電燈株式會社

謹賀新年 晉州錦町 上村種苗園 園主 上村重次郎 電話一三七番

謹賀新年 晉州 後藤松太郎商店 電話六五番

謹賀新年 晉州旭町 高橋酒店 電話五三番

謹賀新年 晉州 清水佐太郎

謹賀新年 晉州金融組合 組合長 河谷粂次郎 理事 北川戍三郎 晉陽金融組合 理事 河村利舍 (いろは順)

謹賀新年 晉州旅館組合(いろは順) 花屋旅館 電話一六番 望月旅館 電話一八番 南江旅館 電話二五番 朝日旅館 電話三七番

謹賀新年 晉州城外 每日往復發著 金泉自働車 電話六六番

謹賀新年 京城永樂町二丁目 朝鮮物産 毛皮貿易商 馬場商店 電話長九八六番 電略(バ)又ハ(バ)

謹賀新年 朝鮮開城 合資會社 貿易商 永信社 電話長一二一番

謹賀新年 朝鮮開城大和町 合資會社 高麗蔘業社 電長四八番 振替京城三一九九番

謹賀新年 京城本町一丁目 電氣器械商 越田電氣商會 電話一四三〇番

謹賀新年 京城本町四丁目 徵兵保險株式會社 京城出張所 電話長二九二四番

謹賀新年 朝鮮開城西本町 人蔘商 木村勇治郎商店 電話三八番

謹賀新年 開城大和町 宮崎醫院 電話三七番

謹賀新年 京城太平通貳丁目 石炭商 西崎商會 電話七二七番 倉庫支店 西大門驛構内 南大門通一丁目

謹賀新年 朝鮮開城 合名會社 貿易商 開城社 電話長六三番

謹賀新年 開城電氣株式會社 電話五六番

謹賀新年 三千浦晉州間 統營晉州間 每日發著 晉州川前里 大野自働車部 電話一一〇番

謹賀新年 馬山 村上竹次郎

謹賀新年 東洋拓殖會社 馬山出張所 都渡千三郎

謹賀新年 馬山 日賀田平三郎 舊馬山 山中市之助

謹賀新年 慶南馬山 合資會社 馬山精米所 同 柳町 合資會社 清水釀造場

謹賀新年 馬山本町四丁目 大池馬山出張所 海産運送 堀田松二郎 電話一二五番 振替京城七八一番

謹賀新年 久原鑛業 統營鑛山事務所

謹賀新年 統營敷島町 東雲旅館 電話七番

統營 藤光卯作

謹賀新年 朝鮮銀行大邱支店 中野滋 清水角次郎 古田信三郎

謹賀新年 土木建築請負業 龍山漢江通一一 宮地吉太郎 電話一〇八番

謹賀新年 新龍山齒科醫院

謹賀新年 東京齒科醫學士 廣瀬文質 龍山漢江通三角地

謹賀新年 信託業 鑛業 明星商會 京城府黄金町一ノ一四八 電話長二四六四番

謹賀新年 奉天千代田通 貿易商 富來洋行出張所

謹賀新年 撫順 東洋炭礦株式會社撫順支店

謹賀新年 新築落成 暖房完全 日清ホテル 吉林商埠地日本領事館前 電話番號四番

謹賀新年 群山府榮町 渡邊吳服店 電話三一〇番

謹賀新年 吉林城内松花江岸 旅館名古屋館 商埠地に新築中の家屋は既に落成一月末迄に移轉致し候

謹賀新年 奉天浪速通 圖書 文房具 山陽書店 電五二九番

謹賀新年 撫順 高等旅館 筑紫館 電話長九番 同驛前支店 電話長六四番